資料１－２

富山県子育て支援・少子化対策県民会議

子育て家庭に対する支援施策についての報告書（答申案）

平成２７年２月

富山県子育て支援・少子化対策県民会議

目　次

１．はじめに・・1

２．施策の方向性

Ⅰ　保育・子育て支援の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅱ　子育ての負担感の軽減・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅲ　経済的負担の軽減・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

Ⅳ　出産年齢・ライフプランの理解・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

Ⅴ　子育てに関する意識・理解・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

Ⅵ　仕事と子育ての両立支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

Ⅶ　子育て家庭に対する住宅支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

参考

・多子世帯の負担軽減を中心とした子育て家庭に対する支援施策について（諮問）・・10

・子育て家庭に対する支援施策検討部会の設置要綱　・・・・・・・・・・・・・・・・・11

・子育て家庭に対する支援施策検討部会委員名簿　・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

・子育て家庭に対する支援施策検討部会開催状況等　・・・・・・・・・・・・・・・・・13

資料編

・検討部会で出された主な意見要旨　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

・子育て家庭に対するヒアリング調査等の実施について　・・・・・・・・・・・・・・・20

・子育て家庭に対する支援施策にかかる基礎調査分析報告　・・・・・・・・・・・・・38

（第三子（以降）出生比率の規定要因）

・「子育て支援サービスに関する調査」結果の概要について・・・・・・・・・・・・・49

１．はじめに

近年、少子化の進行に伴い、子どもの自立心や社会性の減退、労働力人口の減少による経済活力の低下など、社会全体へのさまざまな影響が懸念されている。

また、特に富山県においては、第３子以降の子どもの率が他県よりも低い状況にあるとともに、県民が理想とする子どもの数と実際の子どもの数に大きな乖離があることが明らかになってきている。

こうした状況を踏まえ、富山県子育て支援・少子化対策県民会議は、知事の諮問を受け、平成２５年１月に、富山県子育て支援・少子化対策県民会議に子育て家庭に対する支援施策検討部会を設置し、県民が希望どおり子どもを持てるようにするにはどうしたらよいかという観点から、子育て家庭に対する支援施策検討にかかる基礎調査等の分析や子育て家庭へのヒアリング及びアンケート調査を踏まえ、多子世帯の負担軽減を中心とした子育て家庭に対する支援施策について検討を進めてきた。

本部会においては、これまで４回の会議を開催し、様々な観点から支援施策について検討を行ってきた。

平成２５年２月には、子育て家庭に対する支援施策にかかる基礎調査の分析を富山大学に委託して実施し、同年４月には保育所・幼稚園を利用している子育て家庭に対するヒアリング調査、また同年７月には未就学児や小学生を持つ子育て家庭に対するアンケート調査を行った。

平成２６年１月にはこうした調査結果やこれまでの議論を踏まえ、今後の子育て支援策の方向性について中間とりまとめを行った。

国においては、幼児期における質の高い教育、保育の提供や家庭や地域における子供・子育て支援の充実を目指す「子ども・子育て支援新制度」が平成２７年度から本格施行され、保育や子育て支援などの量の拡充や質の改善が行われることとなった。

また、平成２７年度地方財政対策や国の予算において、地方が人口減少や少子化対策へ取り組み、地方創生を進めるための財政措置が図られることとされたところである。

今般、こうした国の状況も踏まえ、本県における子育て家庭のニーズに即した子育て支援策の方向性について意見のとりまとめを行ったので、ここに報告する。

平成２７年２月

富山県子育て支援・少子化対策県民会議
会長　髙木　繁雄

２．施策の方向性

Ⅰ　保育・子育て支援の充実

子ども・子育て支援新制度の施行に伴い、教育・保育や子育て支援のニーズに対応し、地域の実情に応じて計画的に保育サービス等を提供することや、子育て支援の充実を図ることが求められている。

病児・病後児保育については、仕事と子育ての両立を図るうえで、その果たす役割が高いことから、市町村等に事業実施にかかる情報提供や設置に向けた働きかけを行い、実施箇所や受け入れ枠の拡大を図ることが必要である。

また、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を実施していくことが重要であることに鑑み、育児の不安感や負担感解消のための取り組みの一つであるマイ保育園事業については、医療・保健分野等の関係機関との連携を図るとともに、事業の周知に努め、実施施設や利用者の拡充を図ることが必要である。

放課後児童クラブについては、子ども・子育て支援新制度において、利用対象が「おおむね 10 歳未満の小学生」から「小学生」に拡大されるとともに、県の研修を受講した有資格者を置くこととされた。

このため、放課後児童クラブ指導員の人材確保に努め、計画的に研修を実施するとともに、利用者のニーズを踏まえ、クラブの設置促進や開設時間の延長などの充実を図ることが必要である。

また、子ども・子育て支援新制度において、小規模保育や地域の子どもを受け入れる事業所内保育などが新たに制度化されたことから、こうした仕組みを使って地域の多様なニーズに応じ、きめ細かな保育の提供を促進することが必要である。

Ⅱ　子育ての負担感の軽減

子育ての負担感を軽減するためには、身近な場所に相談しやすい場所があることが重要であることから、引き続き子育て親子の交流の場や子育て支援情報の提供などを行う子育て支援センターの設置促進を図ることが必要である。

また、子育て家庭が子育てに関する必要な情報を容易に得られるよう、情報提供の方法を工夫し、母親の負担感・孤立感の解消に努めることが必要である。

地域における子育て支援の取り組みを促進するため、子育て支援団体・子育てサークル等の活動を支援するとともに、子育て経験者など、地域において子育て支援活動ができる人材の育成に取り組むことが大切である。

父親の育児参画に対する社会全体の理解の醸成や意識改革を図るため、子育て支援センターや保育所などにおいて父親向けの育児講座等を開催するなど、父親の育児参画のきっかけを作っていくことが必要である。

また、保護者の精神的・身体的負担軽減のため、一時預かりなど様々な子育て支援サービスを利用できる子育て応援券について、保護者のニーズを踏まえた対象サービスの充実を図るなど、使いやすい制度となるよう工夫するとともに、引き続き保護者への周知に努め、利用促進を図ることが必要である。

Ⅲ　経済的負担の軽減

平成25年８月に県が実施した未就学児を持つ保護者へのアンケートによれば、理想の数の子どもを持つことができない主な理由として、約７５％が「子育てや教育にお金がかかりすぎる」との回答もあり、保育料等の支援・軽減などの経済的な負担軽減により、子どもを生み育てやすい環境をつくることが重要である。

このため、多子世帯の保育料の軽減について、対象年齢の拡大や軽減率の見直しなど、大幅な拡充を図ることが必要である。

また、多子世帯については、大学進学時における学費等の負担が大きいことから、教育費への支援が重要である。

このため、多子世帯向け低利融資については、制度の普及啓発を図るとともに、より使いやすい制度となるよう検討することが必要である。

Ⅳ　出産年齢・ライフプランの理解

妊娠・出産年齢の上昇に伴う妊娠・出産のリスクについて十分理解がされておらず、第１子出産年齢が高いと希望どおりの数の子どもを生むことが難しいという意見も聞かれた。

このため、若い世代に対し、妊娠や女性特有の健康管理等についての正しい知識を普及啓発するとともに、結婚や妊娠・出産、子育てをライフプランに適切に位置づけるための理解を広めていくことが必要である。

不妊治療を希望する方が早期に治療を受けられることが大切であることから、特定不妊治療費助成については、妊娠する確率がより高い年齢層に配慮することとした国の助成制度変更などに適切に対応することが必要である。

また、男性不妊症や、不育症についての社会的な理解や認知度が低いことから、男女で取り組む不育症・不妊症（男性不妊症も含む）の相談体制の充実や、県民への正しい知識の普及啓発を行うなど、妊娠・出産を望む夫婦が早期に適切な治療に取り組むことができる環境の整備を図ることが必要である。

Ⅴ　子育てに関する意識・理解

これから結婚する人をはじめ、中学生、高校生などに対し、子どもを生み育てることの喜び、楽しさや重要性などを知ってもらうことが大切である。

このため、引き続き学校教育において子育てに関する指導を推進するとともに、社会に学ぶ「１４歳の挑戦」事業における育児体験を実施していくことが大切である。

地域において子育てや家庭教育を支える環境が大きく変化していることから、親を学び伝えるプログラムを活用した親学び講座の実施や家庭教育に関する情報提供、相談体制を充実し、家庭における教育力を向上していくことが必要である。

また、子どもを持つ若い人たちが、子育てを前向きにとらえられるよう、子育ての喜び・楽しさ等についての啓発を進めるとともに、子どもの成長や子育てを社会全体で支援する必要性について県民の理解を促進するため、とやま子育て応援団等を活用し、社会全体が子育てを支援する気運の醸成を図っていく必要がある。

Ⅵ　仕事と子育ての両立

仕事と子育てを両立するためには、働きやすい職場環境づくりを進めことが重要である。

現在、次世代法の基準（従業員 101 人以上）を上回る従業員 51 人以上の企業に対し一般事業主行動計画の策定を義務付けているが、小規模な企業においても両立支援の取組みが促進されるよう、計画策定対象範囲の拡大（例えば 30 人程度以上）について検討を進めるとともに、計画が円滑に策定できるよう、支援を強化することが必要である。

また、行動計画の期間満了（更新）を迎える企業に対し、内容の充実に向けた支援を行うなど、仕事と子育てを両立しやすい職場環境の整備を一層推進することが重要である。

さらに、出産等を機に退職した女性の再就職支援については、就業意識や技術習得の向上に向けた研修や情報提供を行うなど多様なニーズに対応した支援に引き続き取り組むことが大切である。

Ⅶ　子育て家庭に対する住宅支援

持ち家率が高い本県において、自分の家を持ち、かつ、希望どおりの数の子どもも持てるよう、引き続き住宅の取得・リフォームを行う子育て家庭に対して低利な融資制度で支援を行うとともに、積極的に制度の周知に努めることが大切である。

また、県営住宅の入居基準については、入所基準の緩和措置の対象が未就学児のいる子育て家庭から 18 歳の同居者のいる子育て家庭にまで拡大されたが、今後、子育て家庭への制度の周知に努める必要がある。

参考

児青第　　1415　号
平成24年11月22日

富山県子育て支援・少子化対策県民会議
　会長　髙木　繁雄　殿

富山県知事　石　井　隆　一

多子世帯の負担軽減を中心とした子育て家庭に対する支援施策について（諮問）

とやまの未来をつくる子育て支援その他の少子化対策の推進に関する条例第32条第2項の規定により、子育て支援・少子化対策の推進に関する重要事項として、多子世帯の負担軽減を中心とした子育て家庭に対する支援施策について諮問します。

（諮問の趣旨）
平成23年度人口動態統計によると、富山県の合計特殊出生率は1.37で全国の1.39を下回り、全国37位となっている。

また、平成21年に県が実施した意識調査によると、理想の子どもの数について、44.8%の人が3人以上と答えたのに対し、実際に3人以上の子どもを持つつもり又は持ったと答えた人は17.8%にとどまっており、理想とする子どもの数と実際の子どもの数には、大きな乖離がある。

こうした状況を踏まえ、多子世帯の負担軽減を中心とした子育て家庭に対する支援施策について諮問するものである。

子育て家庭に対する支援施策検討部会の設置要綱

（設置）

第１条　とやまの未来をつくる子育て支援その他の少子化対策の推進に関する条例施行規則（平成21年富山県規則第35号）第３条第２項の規定に基づき、富山県子育て支援・少子化対策県民会議（以下「県民会議」という。）に、子育て家庭に対する支援施策検討部会（以下「部会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第２条　部会は、とやまの未来をつくる子育て支援その他の少子化対策の推進に関する条例（平成21年富山県条例第28号）第32条第２項第２号に規定する子育て支援・少子化対策の推進に関する重要事項として、多子世帯の負担軽減を中心とした子育て家庭に対する支援施策について調査審議するものとする。

（組織）

第３条　部会は、県民会議委員及び専門委員若干人で組織する。

２　部会に属する県民会議委員は、会長が指名し、専門委員は、部会の調査審議すべき事項に関し識見のある者のうちから知事が任命する。

３　委員の任期は１年とする。

（部会長）

第４条　部会に部会長を置く。

２　部会長は、県民会議委員の中から会長が指名する。

（会議）

第５条　部会は、部会長が招集し、その会議の議長となる。

２　部会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

３　部会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

４　部会長は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その説明又は意見を聴き、また必要な資料の提出を求めることができる。

（部会の報告）

第６条　部会長は、部会が第２条の規定により定められた多子世帯の負担軽減を中心とした子育て家庭に対する支援施策についての調査審議が終了したとき、又は会長が求めるときは、部会で調査審議した事項又は調査審議の経過を会長に報告しなければならない。

（庶務）

第７条　部会の庶務は、厚生部児童青年家庭課において処理する。

（細則）

第８条　この要綱に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会長が部会に諮って定める。

附　則

この要綱は、平成25年１月15日から施行する。

富山県子育て支援・少子化対策県民会議
子育て家庭に対する支援施策検討部会委員名簿

（五十音順　敬称略）

氏名	役職等	備考
青山　芳枝	富山県婦人会　理事	
金森　勝雄	富山県町村会(舟橋村長)	
神川　康子	富山大学人間発達科学部学部長	（第3回部会まで部会委員及び部会長）
小出　　薫	富山県小学校長会　前会長	
小島　伸也	富山県保育連絡協議会会長	
傍田　裕子	子育てサークルプリプリキッズ代表	
田岸　昌治	日本青年会議所富山ブロック協議会　元会長	
種部　恭子	女性クリニックWe富山院長	
本川　祐治郎 （堂故　　茂）	富山県市長会(氷見市長)	
上田　雅裕 （土岐　幸次）	富山県私立幼稚園協会　会長 （　　〃　　副会長）	
宮田　伸朗	富山国際大学子ども育成学部長	部会長
薮　　道子	富山県PTA連合会　副会長	
和田　麗子	富山県母親クラブ連合会　会長	

氏名の（　）内は前任者

○オブザーバー

富山大学経済学部准教授　　中村真由美

子育て家庭に対する支援施策検討部会開催状況等

区分	時期	主な内容等
第１回	平成 25 年 1 月 15 日	○検討部会 ・出生数・出生率等の状況について ・子育て支援の取り組みの概要について ・子育て家庭に対する支援施策検討にかかる調査の実施について　等
	2 月～4 月	○子育て家庭に対するヒアリング調査等の実施 ○子育て家庭に対する支援施策にかかる基礎調査分析（～8 月）
第２回	5 月 20 日	○検討部会 ・子育て家庭に対する支援施策にかかる基礎調査分析報告 ・子育て家庭に対するヒアリング調査結果報告 ・子育て支援策の方向性　等
	6 月～12 月	○子育て支援サービスに関する調査の実施 ○県民会議　部会における検討状況報告（９月９日）
第３回	平成 26 年 1 月 17 日	○検討部会 ・「子育て支援サービスに関する調査」結果の概要について ・子育て支援策中間とりまとめ（案）について　等 ○県民会議　中間とりまとめ(案)報告（１月 17 日）
第４回	9 月 10 日	○検討部会 ・平成 26 年度における県の子育て支援施策等について ・今後取り組むべき施策の案　等 ○県民会議　部会における検討状況報告（10 月９日）
第５回	平成 27 年 1 月 28 日	○検討部会 ・子育て家庭に対する支援施策についての報告書（案）とりまとめ

資料編

目　　次

ページ

1．検討部会で出された主な意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

2　子育て家庭に対するヒアリング調査・・・・・・・・・・・・・・・・・20

3　子育て家庭に対する支援施策にかかる基礎調査分析報告・・・・・・38
（第三子（以降）出生比率の規定要因）

4　「子育て支援サービスに関する調査結果」の概要について・・・・・49

検討部会で出された主な意見要旨

（第１～４回部会）

Ⅰ　保育・子育て支援の充実

・子どもが病気やインフルエンザになったときなど、いざというときに利用できる仕組みがないことが保護者にとって非常に精神的な負担になっている。

・子どもが急に病気になったときにどうすればいいかの情報を得ることはとても大切。

・病児・病後児施設については、施設は増えているが職員が見つからない施設もあると聞く。職員も充実していかないと意味がないと思う。

・マイ保育園制度の加入は 300 か所程度ある保育所の 6 割くらい。もっとたくさんの施設が登録できないか。

・学童保育が十分とは言えない。それまでと同じように働くことができないことになる。

・熱が出て本当に病気のときは看護師がいないと対応できない。保育園、幼稚園だけでの対応ではなく、医療機関との連携を施策の中に入れてほしい。

・放課後児童クラブは、指導員の体制の充実ということが大変。退職した教員や看護師などを含めた医療関係の方も含めて、人的な充実を図ってほしい。

・放課後児童クラブは時間的にも年齢的にも拡大していくと思われるが、ニーズに対して放課後児童クラブだけでよいのか。ファミリー・サポート・センター等の関連施策やマイ保育園と母子保健の施策・サービスといった関連分野あるいは関連施策の連携で総合的に展開する必要がある。また、それらのサービスを充実していくにあたって、人材を確保することも重要。

・来年度からの新制度に関して、事業所内保育所や小規模保育事業なども挙がっているが、今後、国における具体化も必要であるが、県としてどのように考えていくかということも盛り込んでいただければありがたい。

Ⅱ　子育ての負担感の軽減

・地域の中で孤立感を持っている親が増えている。

・本県は子育てについて相談できる相手は「親」であるという比率が圧倒的に高いが、親だけではなく、より多く相談できるような資源やネットワークの拡充が大切。

・父親の育児参加が重要なポイント。母親の負担が大きすぎる。

・毎日の育児の負担感は、子育て支援センターに子どもを連れていって解決するよりも、日々、夫がどれだけ手伝っているか、父親の参加がどれだけあるかが重要。

・子どもが 3 人以上いる家庭は父親が協力している。男性への教育は大切だと感じる。まず子どもが生まれた時に出産に立ち会う経験をするという、父親としての参加の機会を明確につくっていただくことが大切。

・子育て支援センターや保育所での父親向け育児講座は、父親に参加する時間が必要。企

業側にも伝えて、危機感を持ってもらいたい。

・育児講座は世代間の交流を図るという観点も重要である。

・子育て支援センターはかなり普及してきたと思うが、もっと個々のニーズに応える機関、きめの細かな身近な所での相談機関が必要。

・「妊娠期から子育て期にわたる支援のためのワンストップ拠点の整備」は、子育てのコーディネーター制度と２つになるのではどうかと思う。窓口は１つとしてもらいたい。

・家庭で子育てをしている方の負担感が強い。仕事をしたいわけではないが、周囲がみんな保育園に預けているために不安になり、子どもを保育園に入れるために仕事をしている人が実際にでてきている。支援センターなどの制度を今以上に充実させられれば、家庭で子育てしたい人は家庭でできるような体制を作っていけるのではないか。

・子育て支援センターや一時預かりなどの情報が十分に周知されていないような感じもある。子育て世代の多くはインターネットで情報を得ているので、インターネットでの情報発信をもっとやるべき。

・子育てに協力する父親の姿というのは、保育所で見ているかぎりではかなりあるように思うが、対外的にあまり見えていない気もする。父親の子育て参加を促す中で、現在いろいろと協力されているお父さん方の組織育成というものも考えてみてほしい。

Ⅲ　経済的負担の軽減

・保育料の軽減により、3 人目を生むための気運が生まれてくるのではないか。

・どこの部分で保育料の軽減をすれば一番恩恵があって、もう１人生もうとなるか、考えてほしい。

・3 歳未満児の子どもが 1 人いるだけで共働き夫婦が一生懸命働いても 5 万円近い保育料を払うのは大変高い。

・経済的支援はとても大切。3 人以上いる家庭は裕福だから 3 人以上いるのではなく、本当に厳しい中でも家庭を充実させるために頑張っている。

・子ども２人が保育所に入所している場合、給料のすべてが保育料となってしまう。実感できるような負担軽減の方法を考える必要がある。

・保育所に３人同時入所していると、約 1 人分の保育料で行けるのだが、あまり知られていないのでは。

・子育て応援券や教育資金の奨学給付金も第 3 子以降は手厚いが、できれば第 1 子から手厚くしてほしい。

・経済的な支援を第 3 子に限らすもっと強化するということに対しては全く賛成。どこの点で経済的な支援を行うが効果的に子どもが増えるかということだが、第 2 子でも第 1 子でも支援すべきというのはその通りだと思う。

Ⅳ　出産年齢・ライフプランの理解

・第3子を増やすということについて、生み始めの年齢が遅すぎる。生み始めを早くできるようにしてほしい。

・出産年齢はとても大切だと思う。自分が何歳から何歳の間に出産したら子どもたちをきちんと育てられるかということを考える支援、システムをつくっておくべき。

・生み終わりが37歳という感じにしていただくことが大切。第1子、第2子、第3子の間隔をもう少し縮めないと、ほしい数の子どもを生めないということは知らないとできないので、教育は非常に大切だと思う。

・県は母乳育児を推進していると思うが、母乳育児をしている間は妊娠できないので切り上げる時期も重要。

・今は男女とも大学かその先まで進学するため、社会に出るころには、20代半ばの結婚年齢、出産年齢となっているが、生活基盤はできていない。そのような状況でも子どもを早く産んだ方が良いという気運に高めていくのか、明確にする方がよい。

・高校や大学の時に、ライフプランを実際に立ててみるというような教育を、もっと強力に進めていく必要がある。

・不妊治療の難しさについても、数値として大学生などに伝えていくのも良いのではないか。

Ⅴ　子育てに関する意識・理解

・若いうちから「子育ては楽しい」「たくさん生んでも何とかなる」というイメージを持つことが子どもを生みたいという意欲につながるのではないか。

・子育ては大変だが、楽しく意義のあることで、若い人たちが子どもを安心して生んで育てられるようにしなければならない。

・子どものいじめや不登校などの話をすると、皆子どもたちのことを一生懸命考えている。親学び等を通じて親同士のネットワークを広げようと思う。

・子どもの数がただ増えればいいというものではなく、教育や環境、家庭が健全であってこその少子化対策だと思う。

・親学びということは重要であるが、地域性も重要なので地域の中で育っていく親子でなければならない。地域の核となる人材を育成することも非常に重要。

・子育て関連のイベントについて「ファザーリング全国フォーラム in とやま」が挙げられているが、お父さん方の参加はかなり難しいのでは。そのあたりの進め方が重要。

・アンケートなども母親向けのものが多いが、父親側の意見がもっと反映されるようになれば良い。

・14歳の挑戦の育児体験は非常に良い影響を子どもに与えていると感じる。全員が体験するというわけにはいかないかもしれないが、メディアの協力も得て、そういった情報を

子どもたちも含めて県民が得ることができるとよい。

・気運の醸成について、ぜひ富山県民全員が子育て応援団になるのだという意識を強く啓発してもらいたい。観光ポスターなどに「富山県民は子育てを応援します」と書けるぐらいの方向で進めてほしい。

・案ずるより産むがやすしというような温かい雰囲気づくりをしていくのが、安心して産んでみようかという雰囲気につながっていくのではないか。

Ⅵ　仕事と子育ての両立

・親が子育てに対しての時間的な余裕を持てるよう企業側の理解が必要ではないか。

・労働時間を短くすると女性が正社員でいられ、経済的にも安定し、第 3 子を生みやすくなるという傾向もある。

・子どもが小さいときに一番気になるのは夫の勤務時間。夫の勤務時間が長く、夫婦で一緒に育てる意識がないと第 2 子、第 3 子と増やしていくのは難しい。

・生活の場と職場が近い自営業では、両立がしやすいが、富山県は自営業率が低く、第 3 子出生比率が低い要因の一つとなっていると考えられる。自営業の良い所を企業で働く人にも採り入れるようなことも必要。

・不妊治療の助成金があっても、仕事と不妊治療の両立ができないために諦める方が多い。合計特殊出生率は男性の労働時間の長さと反比例していたはずなので、男性側にフレックスタイム制度を適用するなどして、できるだけ父親が早く家に帰れるようにすることが必要。

・父親の子育て参加はだんだん増えてきてはいると思うが、それでもやはり帰宅が遅い。子どもが病気になったときに仕事を休むのは母親の方が圧倒的に多い。企業の方でも、育休、病児のための育休などは何回か認めてもらえるというような指針があればよい。

Ⅶ　子育て家庭に対する住宅支援

・富山県は持ち家率が非常に高く、家を建てたいとなると、子どもを 1 人増やすよりは家を建てることを考える人が非常に多い。

H25.5.20
児童青年家庭課

子育て家庭に対するヒアリング調査等の実施について

（１）目的等

子どもを持つ保護者を対象に、子どもの数、理想の子どもの数、希望どおりの数の子どもを持つために必要なこと、子育ての楽しさ等の、子育て家庭の生の声を把握することを目的として、アンケート調査及びヒアリング調査を実施した。

調査の実施にあたっては、富山県保育連絡協議会、富山県私立幼稚園協会、富山県母親クラブ連合会、地域子育て支援センター（氷見市、黒部市）の協力を得た。

（２）調査方法

子どもを持つ父親及び子どもの数が１人、２人、３人以上の母親を対象に、４～６名のグループごとに計 11 回のヒアリング（グループインタビュー方式）を行った。また、ヒアリング前にアンケート調査も実施した。

（３）調査時期・場所

平成２５年４月１９日（金）～４月２７日（土）
保育所（富山市　４グループ）、幼稚園（富山市　４グループ）、母親クラブ（１グループ）、子育て支援センター（黒部市・氷見市　各１グループ）

（４）調査人数

（単位：　人）

	保育所保護者	幼稚園保護者	母親クラブ会員	子育て支援ター利用者	計
父親	６	６	－	－	１２
母親で子ども１人	４	４	２	４	１４
母親で子ども２人	４	４	２	４	１４
母親で子ども３人以上	４	４	２	３	１３
計	１８	１８	６	１１	５３

（5）アンケート及びヒアリングの結果概要

【調査対象者の特性】

No.	質問・調査結果
1	お子さんは何人いらっしゃいますか。

<アンケート>

（単位：人　以下同様）

	子ども1人	子ども2人	子ども3人	子ども4人	計
父親	－	9	3	－	12
母親で子ども1人	14	－	－	－	14
母親で子ども2人	－	14	－	－	14
母親で子ども3人以上	－	－	9	4	13
計	14	23	12	4	53

2	配偶者の現在の就労状況を教えてください。 ①自営業　②会社員（正社員）③公務員、公社などの正規職員　④パートタイマー・派遣等　⑤家内労働（内職等） ⑥その他（　　）⑦失業（求職）中　⑧学生　⑨無職（専業主婦（夫）を含む）

<アンケート>

	①自営業	②会社員(正社員)	③公務員、公社などの正規職員	④パートタイマー・派遣等	⑤家内労働(内職等)	⑥その他( )	⑦失業(求職)中	⑧学生	⑨無職(専業主婦(夫)を含む)	計
父親	1	4	0	3	0	1	0	0	3	12
小計	8%	33%	0%	25%	0%	8%	0%	0%	25%	100%
母親で子ども1人	1	9	4	0	0	0	0	0	0	14
母親で子ども2人	1	13	0	0	0	0	0	0	0	14
母親で子ども3人以上	2	11	0	0	0	0	0	0	0	13
小計	4	33	4	0	0	0	0	0	0	41
	10%	80%	10%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
計	5	37	4	3	0	1	0	0	3	53
	9%	70%	8%	6%	0%	2%	0%	0%	6%	100%

3	あなた自身の現在の就労状況を教えてください。 ①自営業　②会社員（正社員）　③公務員、公社などの正規職員　④パートタイマー・派遣等　⑤家内労働（内職等） ⑥その他（　　）　⑦失業（求職）中　⑧学生　⑨無職（専業主婦（夫）を含む）

<アンケート>

	①自営業	②会社員(正社員)	③公務員、公社などの正規職員	④パートタイマー・派遣等	⑤家内労働(内職等)	⑥その他( )	⑦失業(求職)中	⑧学生	⑨無職(専業主婦(夫)を含む)	計
父親	2	9	0	1	0	0	0	0	0	12
小計	17%	75%	0%	8%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
母親で子ども1人	0	2	2	5	0	1	1	0	3	14
母親で子ども2人	1	1	1	6	0	0	0	0	5	14
母親で子ども3人以上	1	2	0	5	0	3	0	0	2	13
小計	2	5	3	16	0	4	1	0	10	41
	5%	12%	7%	39%	0%	10%	2%	0%	24%	100%
計	4	14	3	17	0	4	1	0	10	53
	8%	26%	6%	32%	0%	8%	2%	0%	19%	100%

【子育ての実態】

4	子育て、子どもの世話の分担についてあてはまるものを１つ選択してください。 ①もっぱら妻が行う②主に妻が行うが、夫も手伝う③妻も夫も同じように行う④主に夫が行うが、妻も手伝う⑤もっぱら夫が行う⑥その他（　　）（例：主に祖父母が行うなど）

<アンケート>

	①もっぱら妻が行う	②主に妻が行うが、夫も手伝う	③妻も夫も同じように行う	④主に夫が行うが、妻も手伝う	⑤もっぱら夫が行う	⑥その他	無回答	計
父親	1	8	1	0	0	1	1	12
母親で子ども1人	5	9	0	0	0	0	0	14
母親で子ども2人	0	11	2	0	0	1	0	14
母親で子ども3人以上	2	11	0	0	0	0	0	13
計	8	39	3	0	0	2	1	53
	15%	74%	6%	0%	0%	4%	2%	100%

子育てについて、「②主に妻が行うが、夫も手伝う」が約 74%、「①もっぱら妻が行う」が約 15%、合計約 89%が妻主体で子育てを行っている。

ヒアリングでの意見

- 何事も女がやって当たり前と考えている（子ども１人母）
- 仕事が休みのときは子どもと遊んでくれる（子ども１人母）
- 家にいるときや仕事が休みのときは子どもと一緒にいてくれる（子ども２人母）
- 子どもの面倒を見たりお風呂にいれてくれたりする（子ども２人母）
- 早く帰宅した際は子どもをお風呂に入れてくれる（子ども３人以上母）
- 夫は全くしない（子ども３人以上母）
- ９割は妻がやっている（子ども２人父）
- 祖父母の支援を受けている（子ども３人父）

5	家事の分担についてあてはまるものを１つ選択してください。 ①もっぱら妻が行う②主に妻が行うが、夫も手伝う③妻も夫も同じように行う④主に夫が行うが、妻も手伝う⑤もっぱら夫が行う⑥その他（　　）（例：主に祖父母が行うなど）

<アンケート>

	①もっぱら妻が行う	②主に妻が行うが、夫も手伝う	③妻も夫も同じように行う	④主に夫が行うが、妻も手伝う	⑤もっぱら夫が行う	⑥その他	無回答	計
父親	4	5	1	0	0	1	1	12
母親で子ども1人	7	6	0	0	0	1	0	14
母親で子ども2人	1	8	0	0	0	5	0	14
母親で子ども3人以上	5	7	0	0	0	1	0	13
計	17	26	1	0	0	8	1	53
	32%	49%	2%	0%	0%	15%	2%	100%

家事について、「②主に妻が行うが、夫も手伝う」が約 49%、「①もっぱら妻が行う」が約 32%、合計約 81%が妻主体で子育てを行っている。

ヒアリングでの意見

- 夫は家事は全くできない、しない（子ども１人母）
- 夫に多少は手伝ってもらえる（子ども１人母）
- 夫は家事については結構協力的（子ども２人母）

・夫の両親と同居のため夫は家事はほとんどしない（子ども２人母）
・夫は忙しく家事はすべて自分でやっている。もう一人子どもがいるのと同じ（子ども３人以上母）
・夫は家事も育児も協力してくれる（子ども３人以上母）
・自分は４割くらいやっていると思っているが妻は３割だと思っていると思う（子ども２人父）
・家事は基本的には妻がやっている（子ども２人父、子ども３人父）

6	あなたの現在のお住まいは次のどれにあたりますか。あてはまるものを選択してください。 ①持ち家（一軒家）②持ち家（マンションなどの集合住宅）③民間の賃貸住宅④公団・公社・公営の賃貸住宅⑤社宅・公務員社宅⑥親の家の間借り⑦その他（　　）

<アンケート>

	①持ち家(一軒家)	②持ち家(マンションなどの集合住宅)	③民間の賃貸住宅	④公団・公社・公営の賃貸住宅	⑤社宅・公務員社宅	⑥親の家の間借り	⑦その他	無回答	計
父親	7	0	2	0	0	2	0	1	12
母親で子ども1人	10	0	2	1	1	0	0	0	14
母親で子ども2人	11	0	0	0	0	2	1	0	14
母親で子ども3人以上	13	0	0	0	0	0	0	0	13
計	41	0	4	1	1	4	1	1	53
	77%	0%	8%	2%	2%	8%	2%	2%	100%

「①持ち家（一軒家）」が全体の約77%となっている。

ヒアリングでの意見
・新築で建てる際に子ども部屋が２部屋というモデルルームが多いので子どもが２人までとなってしまう例は多いのではないか。（子ども１人母）
・富山の人は住宅にかけるお金が大きく、「家か子どもか」になってしまうのではないか（子ども２人母）
・もともと子ども部屋は２つだったが、結果として４人の子どもとなった（子ども３人以上母）
・家が狭いこともあり、子どもの理想は３人だが２人となっている（子ども２人父）
・家を建てたが子ども部屋が２つで子どもが２人である（子ども２人父）

7	問８で③～⑦と回答された方にお聞きします。今後持ち家を購入される予定がある場合、どのタイミングで購入されますか。 ①子どもがもう一人生まれる時②子ども（第一子）が保育園（幼稚園）児等になるとき③子ども（第一子）が小学生になるとき④子ども（第一子）が中学生になるとき⑤購入の予定はない⑥その他（　　）

<アンケート>

	①子どもがもう一人生まれる時	②子ども(第一子)が保育園(幼稚園)児等になるとき	③子ども(第一子)が小学生になるとき	④子ども(第一子)が中学生になるとき	⑤購入の予定はない	⑥その他	無回答	計
父親	0	0	1	0	0	3	1	5
母親で子ども1人	1	0	0	0	3	0	0	4
母親で子ども2人	0	0	0	0	3	0	0	3
母親で子ども3人以上	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	0	1	0	6	3	1	12
	8%	0%	8%	0%	50%	25%	8%	100%

8	問８で③～⑦と回答された方にお聞きします。今後持ち家を購入される予定がある場合、親からの支援を受ける予定はありますか。 ①全面的に支援を受ける予定②半分程度支援を受ける予定③多少の支援を受ける予定④全く支援を受ける予定はない⑤分からない⑥その他（　　）

<アンケート>

	①全面的に支援を受ける予定	②半分程度支援を受ける予定	③多少の支援を受ける予定	④全く支援を受ける予定はない	⑤分からない	⑥その他	無回答	計
父親	0	0	0	0	4	0	1	5
母親で子ども1人	0	0	1	0	2	1	0	4
母親で子ども2人	0	0	0	0	1	0	0	1
母親で子ども3人以上	0	0	0	1	0	0	0	1
計	0	0	1	1	7	1	1	11
	0%	0%	9%	9%	64%	9%	9%	100%

9	夫側の親の住まいとの距離についてお聞きします。もっともよく使う交通手段でかかる時間をお答えください。なお、親が離別している場合はあなたのお住まいに近い方についてお答えください。 ①夫側の親と同居②夫側の親と別居（片道 15 分未満）③夫側の親と別居（片道 15 分～30 分未満）④夫側の親と別居（片道 30 分～1 時間未満）⑤夫側の親と別居（片道 1 時間以上）⑥夫側の親は両親とも他界

<アンケート>

	①夫側の親と同居	②夫側の親と別居（片道15分未満）	③夫側の親と別居（片道15分～30分未満）	④夫側の親と別居（片道30分～1時間未満）	⑤夫側の親と別居（片道1時間以上）	⑥夫側の親は両親とも他界	無回答	計
父親	4	4	1	2	1	0	0	12
母親で子ども1人	1	7	3	1	2	0	0	14
母親で子ども2人	2	6	0	0	5	0	1	14
母親で子ども3人以上	2	5	1	1	3	1	0	13
計	9	22	5	4	11	1	1	53
	17%	42%	9%	8%	21%	2%	2%	100%

10	妻側の親の住まいとの距離についてお聞きします。もっともよく使う交通手段でかかる時間をお答えください。なお、親が離別している場合はあなたのお住まいに近い方についてお答えください。 ①妻側の親と同居②妻側の親と別居（片道 15 分未満）③妻側の親と別居（片道 15 分～30 分未満） ④妻側の親と別居（片道 30 分～1 時間未満）⑤妻側の親と別居（片道 1 時間以上）⑥妻側の親は両親とも他界

<アンケート>

	①妻側の親と同居	②妻側の親と別居（片道15分未満）	③妻側の親と別居（片道15分～30分未満）	④妻側の親と別居（片道30分～1時間未満）	⑤妻側の親と別居（片道1時間以上）	⑥妻側の親は両親とも他界	無回答	計
父親	0	4	0	5	3	0	0	12
母親で子ども1人	2	4	3	4	1	0	0	14
母親で子ども2人	3	2	1	3	5	0	0	14
母親で子ども3人以上	1	4	2	0	4	1	1	13
計	6	14	6	12	13	1	1	53
	11%	26%	11%	23%	25%	2%	2%	100%

11	夫側の親からの子育て支援についてあてはまるものを１つ選択してください。 ①とてもよく支援をしてもらっている②よく支援をしてもらっている③どちらともいえない④あまり支援をしてもらっていない⑤全く支援をしてもらっていない

<アンケート>

	①とてもよく支援をしてもらっている	②よく支援をしてもらっている	③どちらともいえない	④あまり支援をしてもらっていない	⑤全く支援をしてもらっていない	無回答	計
父親	3	6	1	1	1	0	12
母親で子ども1人	2	3	2	6	1	0	14
母親で子ども2人	4	4	3	1	1	1	14
母親で子ども3人以上	3	1	4	3	2	0	13
計	12	14	10	11	5	1	53
	23%	26%	19%	21%	9%	2%	100%

夫側の親からの支援については「②よく支援をしてもらっている」が全体の約 26%、「①とてもよく支援をしてもらっている」が約 23%、合計約 49%はよく支援を受け、「④あまり支援を受けていない」「⑤全く支援を受けていない」が合わせて約 30%となっている。

12	妻側の親からの子育て支援についてあてはまるものを１つ選択してください。 ①とてもよく支援をしてもらっている②よく支援をしてもらっている③どちらともいえない④あまり支援をしてもらっていない⑤全く支援をしてもらっていない

<アンケート>

	①とてもよく支援をしてもらっている	②よく支援をしてもらっている	③どちらともいえない	④あまり支援をしてもらっていない	⑤全く支援をしてもらっていない	計
父親	4	4	1	2	1	12
母親で子ども1人	7	6	1	0	0	14
母親で子ども2人	7	2	3	1	1	14
母親で子ども3人以上	3	2	4	2	2	13
計	21	14	9	5	4	53
	40%	26%	17%	9%	8%	100%

妻側の親からの支援については「①とても支援をしてもらっている」が全体の約 40%、「②よく支援をしてもらっている」が約 26%、合計約 66%はよく支援を受けている。

ヒアリングでの意見

- 近くに夫の実家があるので仕事の間見てもらっている（子ども１人母）
- 自分の実家の方が頼りやすい（子ども１人母）
- 夫の実家に同居しているので支援を受けている（子ども２人母）
- 自分の実家が遠く、夫の実家の方が近いので夫側の実家の支援が多い（子ども２人母）
- 自分の親と同居しているので自分の親の支援を全面的に受けている（子ども３人以上母）
- 両方とも県外なので支援はない（子ども３人以上母）
- 親に頼ろうと思えば頼れるが、その分面倒なことも返ってくるので、一時保育などを利用しながら自分でやってきた（子ども３人母）
- 同居のため自分の親から支援を受けている（子ども２人父、子ども３人父）

13	子育ての費用の中で負担が大きいと思うものは何ですか。上位３つを選択してください。 ①食費②生活用品費③医療費④保育費⑤学校教育費⑥その他教育費（塾、習い事など）⑦衣類・雑貨費⑧おこづかい⑨お祝い行事関係費⑩子どものための預貯金・保険⑪レジャー・旅行費

<アンケート>

	①食費	②生活用品費	③医療費	④保育費	⑤学校教育費	⑥その他教育費（塾、習い事など）
父親	5	5	1	4	5	6
母親で子ども1人	3	4	3	9	5	4
母親で子ども2人	4	5	1	6	1	4
母親で子ども3人以上	6	3	2	6	3	7
計	18	17	7	25	14	21
	12%	11%	5%	16%	9%	14%

	⑦衣類・雑貨費	⑧おこづかい	⑨お祝い行事関係費	⑩子どものための預貯金・保険	⑪レジャー・旅行費	計
父親	2	0	2	5	0	35
母親で子ども1人	5	0	1	5	1	40
母親で子ども2人	5	0	2	8	4	40
母親で子ども3人以上	4	0	1	6	2	40
計	16	0	6	24	7	155
	10%	0%	4%	15%	5%	100%

「④保育費」が全体の約 16%、「⑩子どものための預貯金・保険」が約 15%、「⑥その他教育費（塾、習い事など)」が約 14%という順となっている。(複数回答)

14	子育てをしていて負担・不安に思うことは何ですか。あてはまるものを全て選択してください。 ①子育てによる身体的負担が大きい②子育てによる精神的負担が大きい③子育ての出費がかさむ④自分の自由な時間がもてない⑤夫婦で楽しむ時間がない⑥仕事が十分にできない⑦子育てが大変なことを職場の人が理解してくれない⑧子どもが病気のとき⑨将来予想される子どもにかかる経済的負担⑩負担に思うことはない ⑪その他（　　）

<アンケート>

	①子育てによる身体的負担が大きい	②子育てによる精神的負担が大きい	③子育ての出費がかさむ	④自分の自由な時間がもてない	⑤夫婦で楽しむ時間がない	⑥仕事が十分にできない
父親	0	1	4	1	1	2
母親で子ども1人	3	5	6	6	2	5
母親で子ども2人	0	1	4	5	2	2
母親で子ども3人以上	4	6	8	6	2	5
計	7	13	22	18	7	14
	5%	9%	16%	13%	5%	10%

	⑦子育てが大変なことを職場の人が理解してくれない	⑧子どもが病気のとき	⑨将来予想される子どもにかかる経済的負担	⑩負担に思うことはない	⑪その他	計
父親	0	7	5	0	0	21
母親で子ども1人	0	6	6	1	0	40
母親で子ども2人	0	8	9	1	0	32
母親で子ども3人以上	0	5	9	0	2	47
計	0	26	29	2	2	140
	0%	19%	21%	1%	1%	100%

子育ての不安・負担については「⑨将来予想される子どもに係る経済的負担」が約 21%、「⑧子どもが病気のとき」が約 19%、「③子どもの出費がかさむ」が約 16%となっている。(複数回答)

ヒアリングでの意見

・教育費や家のローン（子ども１人母）
・子どもの習い事、保育料、大学の資金などの貯蓄（子ども２人母）
・子どもが大きくなってからの大学進学等の教育費（子ども３人以上母）
・３人の子が順番に高校を出て進学しつつあるが、経済的に本当に大変（子ども３人父親）
・インフルエンザ等で何日も休まなければならないときなどがあり、病児・病後児保育を充実してほしい。小学生になると病児・病後児保育がないのも不都合（子ども２人父）

15	大学・短大への進学について、どのようなお考えをお持ちですか。将来予定している子どもも含めて該当する欄に○をつけてください。 ※第５子以上について記載されたい場合は欄外をご利用ください。

<アンケート>

	第1子								第2子							
	大学	短期大学	専門学校	高等学校	特に考えていない	その他	無回答	計	大学	短期大学	専門学校	高等学校	特に考えていない	その他	無回答	計
父親	7 58%	1 8%		1 8%	1 8%	1 8%	1 8%	12 100%	7 58%	1 8%		1 8%	1 8%	1 8%	1 8%	12 100%
母親で子ども1人	9 64%	1 7%			2 14%	2 14%		14 100%								
母親で子ども2人	11 79%			2 14%			1 7%	14 100%	11 79%			2 14%			1 7%	14 100%
母親で子ども3人以上	7 54%			2 15%	1 8%	3 23%		13 100%	4 31%	3 23%		2 15%	1 8%	3 23%		13 100%

	第3子								第4子							
	大学	短期大学	専門学校	高等学校	特に考えていない	その他	無回答	計	大学	短期大学	専門学校	高等学校	特に考えていない	その他	無回答	計
父親	1 50%	1 50%						2 100%								
母親で子ども1人																
母親で子ども2人																
母親で子ども3人以上	5 38%		1 8%	2 15%	2 15%	3 23%		13 100%	2 50%			1 25%		1 25%		4 100%

大学進学を考えている方が出生順位に関わらず最も多い。

16	お住まいの地域の将来の経済的な展望について、あなたはどう思っていますか。 ①大変不安に感じる②多少不安に感じる③どちらでもない④あまり不安に感じない⑤全く不安に感じない⑥わからない

<アンケート>

	①大変不安に感じる	②多少不安に感じる	③どちらでもない	④あまり不安に感じない	⑤全く不安に感じない	⑥わからない	無回答	計
父親	1	0	6	2	0	2	1	12
母親で子ども1人	1	5	4	2	1	1	0	14
母親で子ども2人	1	6	2	2	1	1	1	14
母親で子ども3人以上	0	5	4	1	1	2	0	13
計	3	16	16	7	3	6	2	53
	6%	30%	30%	13%	6%	11%	4%	100%

お住まいの地域の展望については、「②多少不安に感じる」「③どちらでもない」がともに約30%となっている。

17	あなたが就労している理由は何ですか。あてはまるものをすべて選択してください。（質問５で①～⑥を選択した方） ①生計を維持するため②家計を補助するため③将来に備えて貯蓄するため④自分の自由になるお金を得るため⑤働くのは当然だから⑥自分の能力や可能性を試したいから⑦仕事を通じて達成感を得たいから⑧社会のために貢献していたいから⑨いろいろな人や社会とのつながりを持ちたいから⑩時間を有効に使いたいから⑪家庭だけにはいたくないから⑫家業だから⑬その他（　　）

<アンケート>

	①生計を維持するため	②家計を補助するため	③将来に備えて貯蓄するため	④自分の自由になるお金を得るため	⑤働くのは当然だから	⑥自分の能力や可能性を試したいから	⑦仕事を通じて達成感を得たいから
父親	11	2	4	2	5	3	2
小計	30%	5%	11%	5%	14%	8%	5%
母親で子ども1人	2	10	5	3	1	3	1
母親で子ども2人	1	6	5	5	1	3	2
母親で子ども3人以上	4	6	6	4	0	1	2
小計	7	22	16	12	2	7	5
	7%	23%	16%	12%	2%	7%	5%
計	18	24	20	14	7	10	7
	13%	18%	15%	10%	5%	7%	5%

	⑧社会のために貢献していたいから	⑨いろいろな人や社会とのつながりを持ちたいから	⑩時間を有効に使いたいから	⑪家庭だけにはいたくないから	⑫家業だから	⑬その他	計
父親	2	3	1	1	1	0	37
小計	5%	8%	3%	3%	3%	0%	100%
母親で子ども1人	1	5	0	0	1	1	33
母親で子ども2人	2	5	0	1	1	0	32
母親で子ども3人以上	2	4	0	1	2	0	32
小計	5	14	0	2	4	1	97
	5%	14%	0%	2%	4%	1%	100%
計	7	17	1	3	5	1	134
	5%	13%	1%	2%	4%	1%	100%

就労している理由について、

父親は「①生計を維持するため」が最も多く、次いで「⑤働くのは当然だから」となっている。

母親は「②家計を補助するため」が最も多く、次いで「③将来に備えて貯蓄するため」、「⑨いろいろな人や社会とのつながりを持ちたいから」となっている。

ヒアリングでの意見

- 一人で子どもを見るのが不安で働きに出た（子ども１人母）
- 子どもを預けることには抵抗はなかった。自分がいかに自立して生活できるかを考えている（子ども１人母）
- もともと仕事はしたいと思っていた。子どもと一緒にいて感じるストレスがあるなら、働いてその分子供にやさしくできる（子ども２人母）
- 子どもが小さいうちはパートで、大きくなったらフルタイムになると思う（子ども２人母）
- 社会に出たいという気持ちが強くなり、仕事に出た。子どもとだけいると、社会において行かれる気持ちになってしまった（子ども３人以上母）
- 子どもが小さいうちは生活が苦しくても自分で子どもを見たいと思っていたが、子どもが大きくなり、家を建てたことで仕事を始めた（子ども３人以上母）

18	あなたの会社・職場の育児制度の活用や子育てについての理解の度合いについてあてはまるものを１つ選択してください（質問５で①～⑥を選択した方） ①とても理解があると思う②まあ理解があると思う③どちらとも言えない④あまり理解はないと思う ⑤全く理解はないと思う

<アンケート>

	①とても理解があると思う	②まあ理解があると思う	③どちらとも言えない	④あまり理解はないと思う	⑤全く理解はないと思う	計
父親	2	6	1	2	0	11
母親で子ども1人	3	4	2	1	0	10
母親で子ども2人	4	3	1	0	0	8
母親で子ども3人以上	6	4	1	0	0	11
計	15	17	5	3	0	40
	38%	43%	13%	8%	0%	100%

「②まあ理解があると思う」「①とても理解があると思う」が全体の約 81%を占めている。

ヒアリングでの意見

- 子どもがいることが前提での職場なので融通はきく（子ども１人母）
- 制度ばかりではなく子育てしやすい環境の整備が必要（子ども１人母）
- 育児休暇は取りやすいが、時短勤務などはやんわりと断られる、絵にかいたモチ（子ども２人母）
- 時短勤務など制度は充実しているが、実際利用すると他の職員にしわ寄せが行き、実際は取りにくかった（子ども２人母）
- 男性の育児休暇の取得のしやすさがあればいい（子ども３人以上母）
- 男性側の会社にも男性の育児休暇制度はあるが、実際取った人はいない。何のための制度かと思った（子ども３人以上母）
- 休みは事前に届け出を出せば休める（子ども２人父）
- もともと仕事は休めないという意識はあるが、子どものために休むことはある（子ども２人父）

19	あなたが就労していない理由は何ですか。あてはまるものをすべて選択してください。 （質問５で⑦～⑨を選択した方） ①子育てに専念したいから②雇用先が少ない③条件に合う雇用先がない④しばらく仕事から離れ、自信がない⑤家族が働くことを望まない⑥子どもの預け先がない⑦経済的に働く必要がない⑧家事・育児が負担⑨その他（　　）

<アンケート>

	①子育てに専念したいから	②雇用先が少ない	③条件に合う雇用先がない	④しばらく仕事から離れ、自信がない	⑤家族が働くことを望まない	⑥子どもの預け先がない	⑦経済的に働く必要がない	⑧家事・育児が負担	⑨その他	計
父親	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
母親で子ども1人	4	1	2	1	0	0	1	0	2	11
母親で子ども2人	3	2	3	1	1	2	1	0	0	13
母親で子ども3人以上	2	0	1	0	0	0	0	2	0	5
計	9	3	6	2	1	2	2	2	3	30
	30%	10%	20%	7%	3%	7%	7%	7%	10%	100%

就労していない理由としては、「①子育てに専念したいから」が約 30%と一番多く、ついで「③条件に雇用先がない」が約 20%と続く。

ヒアリングでの意見

・家事と育児の両立ができるか不安（子ども１人母）
・一度復帰はしたが、会社側の受け入れ体制が整っていなかった（子ども１人母）
・もともと自分が子どもを見たいという気持ちがあった（子ども２人母）
・夫も自分も子どもが小さいうちは母親が子どもを見るという思いがあるし、実際仕事と家事の両立ができないと思う（子ども２人母）
・子どもが小さいうちは家にいて、ある程度大きくなってから働きたいと思う（子ども３人以上母）
・自分の母が正社員で忙しかったこともあり、子どもは母親が見るように言われて育った。これからも仕事はしたくはない（子ども３人以上母）

父親に「母親には子どもが小さいうちは家にいて子育てに専念してほしいと思うか」を聞いたところ、
・子どもは３歳までは母親が見るものだと思っていて実際そうしてもらっている（子ども２人父）
・妻自身の意識に任せている（子ども２人父）
・自分の親も自分も妻自身も子どもが３歳まではうちにいて子どもを見てほしいと思っていたし実際そうしていた（子ども２人父）
といった意見があった。

20	次のすべての意見について、あなたはどのように思いますか。該当する記号に○をつけてください。 a あてはまる　b ややあてはまる　c どちらとも言えない　d あまりあてはまらない e あてはまらない

<アンケート>

①夫は外で働き、妻は家庭を守った方がいい							
	a あてはまる	b ややあてはまる	c どちらとも言えない	d あまりあてはまらない	e あてはまらない	無回答	計
父親	1	4	4	2	0	1	12
母親で子ども1人	2	4	4	2	2	0	14
母親で子ども2人	0	3	5	1	4	1	14
母親で子ども3人以上	0	5	3	3	2	0	13
計	3	16	16	8	8	2	53
	6%	30%	30%	15%	15%	4%	100%

「①夫は外で働き、妻は家庭を守った方がいい」に対して、「ｂややあてはまる」と「ｃどちらとも言えない」がともに約 30%となっている。

②母親が外で働くと、小学校に通う前の子どもはつらい思いをしやすい							
	a あてはまる	b ややあてはまる	c どちらとも言えない	d あまりあてはまらない	e あてはまらない	無回答	計
父親	0	4	2	2	3	1	12
母親で子ども1人	3	5	3	2	1	0	14
母親で子ども2人	1	3	7	1	1	1	14
母親で子ども3人以上	0	2	8	3	2	0	13
計	4	14	18	8	7	2	53
	8%	26%	34%	15%	13%	4%	100%

「②母親が外で働くと、小学校に通う前の子どもはつらい思いをしやすい」に対しては、「ｃどちらとも言えない」が約 34%、次いで「ｂややあてはまる」が約 26%となっている。

③仕事を持つ妻は、家事・育児に多少手が回らないのは仕方がない							
	a あてはまる	b ややあてはまる	c どちらとも言えない	d あまりあてはまらない	e あてはまらない	無回答	計
父親	0	7	3	0	0	2	12
母親で子ども1人	3	7	3	1	0	0	14
母親で子ども2人	6	7	0	0	0	1	14
母親で子ども3人以上	2	6	2	1	2	0	13
計	11	27	8	2	2	3	53
	21%	51%	15%	4%	4%	6%	100%

「③仕事を持つ妻は、家事・育児に多少手が回らないのは仕方がない」については、「b ややあてはまる」が約 51%を占め、次いで「a あてはまる」が約 21%となっている。

④妻も仕事を持ち、夫も家事や育児を分担すべきだ							
	a あてはまる	b ややあてはまる	c どちらとも言えない	d あまりあてはまらない	e あてはまらない	無回答	計
父親	1	5	4	0	0	2	12
母親で子ども1人	3	4	7	0	0	0	14
母親で子ども2人	3	4	5	1	0	1	14
母親で子ども3人以上	1	6	5	1	0	0	13
計	8	19	21	2	0	3	53
	15%	36%	40%	4%	0%	6%	100%

「④妻も仕事を持ち、夫も家事や育児を分担すべきだ」について、「c どちらともいえない」が約 40%、「b ややあてはまる」が約 36%となっている。

⑤結婚したら子どもを持つのは自然な流れである							
	a あてはまる	b ややあてはまる	c どちらとも言えない	d あまりあてはまらない	e あてはまらない	無回答	計
父親	4	3	3	0	0	2	12
母親で子ども1人	2	7	4	1	0	0	14
母親で子ども2人	7	3	1	0	2	1	14
母親で子ども3人以上	8	3	2	0	0	0	13
計	21	16	10	1	2	3	53
	40%	30%	19%	2%	4%	6%	100%

「⑤結婚したら子供を持つのは自然な流れである」については「a あてはまる」が約 40%、「b ややあてはまる」が約 30%となっている。

⑥一人っ子より兄弟がいる方が望ましい							
	a あてはまる	b ややあてはまる	c どちらとも言えない	d あまりあてはまらない	e あてはまらない	無回答	計
父親	4	5	1	0	0	2	12
母親で子ども1人	7	3	4	0	0	0	14
母親で子ども2人	8	2	1	0	2	1	14
母親で子ども3人以上	11	2	0	0	0	0	13
計	30	12	6	0	2	3	53
	57%	23%	11%	0%	4%	6%	100%

「⑥一人っ子より兄弟がいる方が望ましい」については、「a あてはまる」が約 57%、「b ややあてはまる」が約 23%となっている。

⑦子どもは跡取りである男の子を一人は生んだ方がいい							
	a あてはまる	b ややあてはまる	c どちらとも言えない	d あまりあてはまらない	e あてはまらない	無回答	計
父親	0	2	5	1	2	2	12
母親で子ども1人	0	2	4	3	5	0	14
母親で子ども2人	0	1	4	2	6	1	14
母親で子ども3人以上	0	3	4	1	5	0	13
計	0	8	17	7	18	3	53
	0%	15%	32%	13%	34%	6%	100%

「⑦子どもは跡取りである男の子を一人は生んだ方がいい」については、「e あてはまらない」が約 34%、「c どちらともいえない」が約 32%となっている。

⑧子育ては大変だが、子どもはかけがえのない大切な存在である。							
	a あてはまる	b ややあてはまる	c どちらとも言えない	d あまりあてはまらない	e あてはまらない	無回答	計
父親	10	0	0	0	0	2	12
母親で子ども1人	14	0	0	0	0	0	14
母親で子ども2人	13	0	0	0	0	1	14
母親で子ども3人以上	13	0	0	0	0	0	13
計	50	0	0	0	0	3	53
	94%	0%	0%	0%	0%	6%	100%

「⑧子育ては大変だが、子どもはかけがえのない大切な存在である」については、「a あてはまる」が全体の約 94%となっている。

21	**第１子の出産のきっかけについて最もあてはまるものを１つ選択してください。** ①自然な成り行き②自分の年齢的な理由③経済的な理由④仕事上の理由⑤その他（　　）

<アンケート>

	①自然な成り行き	②自分の年齢的な理由	③経済的な理由	④仕事上の理由	⑤その他	無回答	計
父親	12	0	0	0	0	0	12
母親で子ども1人	9	4	0	0	1	0	14
母親で子ども2人	9	3	0	0	0	2	14
母親で子ども3人以上	13	0	0	0	0	0	13
計	43	7	0	0	1	2	53
	81%	13%	0%	0%	2%	4%	100%

22	**第２子以降の出産のきっかけについて、最もあてはまるものを１つ選択してください。**(該当者のみ) ①自然な成り行き②自分の年齢的な理由③上の子の年齢との間隔④経済的な理由⑤仕事上の理由⑥その他（　　）

<アンケート>

	①自然な成り行き	②自分の年齢的な理由	③上の子の年齢との間隔	④経済的な理由	⑤仕事上の理由	⑥その他	無回答	計
父親	11	0	1	0	0	0	0	12
母親で子ども1人	0	0	0	0	0	0	0	0
母親で子ども2人	5	2	5	0	0	0	2	14
母親で子ども3人以上	9	0	4	0	0	0	0	13
計	25	2	10	0	0	0	2	39
	64%	5%	26%	0%	0%	0%	5%	100%

23	あなたが理想とする子どもの数は何人ですか。 ＜直接記入＞

<アンケート>

	子ども1人	子ども2人	子ども2人～3人	子ども2人～4人	子ども3人
父親	0	2	4		5
母親で子ども1人		10	1		3
母親で子ども2人		5			6
母親で子ども3人以上		1	1	1	5
計	0	18	6	1	19
	0%	34%	11%	2%	36%

	子ども4人	子ども5人	何人でも	無回答	計	平均
父親	1				12	2.75
母親で子ども1人					14	2.25
母親で子ども2人				3	14	2.55
母親で子ども3人以上	3	1	1		13	3.29
計	4	1	1	3	53	2.69
	8%	2%	2%	6%	100%	

「何人でも」「無回答」除く

理想とする子どもの数は、全体としては「子ども３人」が約 36%、次いで「子ども２人」が約 34%となっている。

子ども１人を持つ母親を見ると、理想の数を「子ども２人」とした方が 10 人（71%）となっている。

24	**あなたが計画（予定）している子どもの数は何人ですか。**※現在お持ちのお子さんも含めてご記入ください。＜直接記入＞

<アンケート>

	子ども1人	子ども2人	子ども2人～3人	子ども3人	子ども4人	無回答	計	平均
父親		6	2	3		1	12	2.36
母親で子ども1人	5	7		1		1	14	1.69
母親で子ども2人		10		1		3	14	2.09
母親で子ども3人以上				9	4	-	13	3.31
計	5	23	2	14	4	5	53	2.38
	9%	43%	4%	26%	8%	9%	100%	

計画している子どもの数は、全体として「子ども２人」が約 43%、次いで「子ども３人」が約 26%となっている。

ヒアリングでの意見

- 子どもができにくく、第１子が生まれるまでに時間がかかった。不妊治療等によりようやく１人出産した。本当はもう１人ほしいが年齢的に難しい（子ども１人母）
- 仕事の都合を考えると子どもを生むタイミングが難しい（子ども１人母）
- 理想は兄弟がいた方がいいと思い２人以上だったが、理想どおり２人となった（子ども２人母）
- ３人ほしいと思っていたが高齢出産で帝王切開だったこと、自分もやりたいことがあったことから２人となった（子ども２人母）
- もともと理想が３人だったことから、自然な流れで３人となった（子ども３人以上母）

・家を建てた頃は子ども部屋２つだったが、子どもが大きくなるにつれて３人目がほしくなり、結果として４人の子どもを生んだ（子ども３人以上母）
・自分自身は３人兄弟だったので３人でもいいと思うが、経済的な理由で２人である（子ども２人父）
・もともと２人以上３人以下という理想だったが、自然な感じで３人生まれた（子ども３人以上父）

25	利用している（したことがある）子育て支援サービス等は何ですか。あてはまるものをすべて選択してください。 ①保育所②幼稚園③放課後児童クラブ（学童保育）④ファミリー・サポート・センター⑤地域子育て支援センター⑥一時保育・一時預かり⑦病児・病後児保育⑧その他（　　）

<アンケート>

	①保育所	②幼稚園	③放課後児童クラブ(学童保育)	④ファミリー・サポート・センター	⑤地域子育て支援センター	⑥一時保育・一時預かり	⑦病児・病後児保育	⑧その他	計
父親	8	6	5	0	2	3	0	1	25
母親で子ども1人	4	3	0	0	7	2	0	1	17
母親で子ども2人	9	5	4	0	5	3	0	0	26
母親で子ども3人以上	10	8	6	2	5	8	1	1	41
計	31	22	15	2	19	16	1	3	109
	28%	20%	14%	2%	17%	15%	1%	3%	100%

「①保育所」が全体の約 28%で最も多くなっている。子どもが１人の母親については、「⑤地域子育て支援センター」が最も利用されている。

ヒアリングでの意見
・子どもが１歳になるまで子育て支援センターを知らず孤独だった。もっと早く知りたかった（子ども１人母）
・支援センターについては、平日は通うように毎日来ている（子ども１人母）
・支援センターは利用したことはない。母が子どもを見るべきという思いがあったし、情報も伝わってこなかった（子ども２人母）
・一時保育などは自分のリフレッシュのために使っていいのかという思いがあるし、事前予約が必要だったり、保育所によって手続きに差があったりするようだ（子ども２人母）
・子育て支援センターは、働いていることもあり行く暇がない（子ども３人以上母）
・もともと近所に友達がいて、支援センターなどはわざわざ行く必要がなかった（子ども３人以上母）
・親が働いているかどうかで保育園から幼稚園に移らないといけないとなると、子どもの気持ちの面からはどうなのだろうか（子ども２人父）

26	子育ての相談や子どもを世話してくれる人についてあてはまるものをすべて選択してください。 ①夫・妻②親③親族④友人⑤近所の人⑥職場の人⑦地域子育て支援拠点等の公的施設の人⑧その他（　　）

<アンケート>

	①夫・妻	②親	③親族	④友人	⑤近所の人	⑥職場の人	⑦地域子育て支援	⑧その他	計
父親	10	11	5	3	2	1	0	0	32
母親で子ども1人	14	13	5	8	1	3	6	2	52
母親で子ども2人	12	11	4	10	3	4	4	0	48
母親で子ども3人以上	13	10	7	8	4	3	2	0	47
計	49	45	21	29	10	11	12	2	179
	27%	25%	12%	16%	6%	6%	7%	1%	100%

27	子どもを生んで良かったことについてあてはまるものをすべて選択してください。 ①家庭が明るくなる。②親族や身近な人が子どもと接して喜ぶ③生活に張り合いができる④子育てを通じて友人が増える⑤子育てを通じて自分の視野が広がる⑥子育てを通じて自分も精神的に成長する ⑦夫婦の愛情が深まる⑧その他（　　）⑨良いと思うところはない⑩わからない

<アンケート>

	①家庭が明るくなる。	②親族や身近な人が子どもと接して喜ぶ	③生活に張り合いができる	④子育てを通じて友人が増える	⑤子育てを通じて自分の視野が広がる
父親	11	9	6	5	5
母親で子ども1人	14	11	11	11	12
母親で子ども2人	11	10	8	9	10
母親で子ども3人以上	12	8	7	11	11
計	48	38	32	36	38
	19%	15%	13%	14%	15%

	⑥子育てを通じて自分も精神的に成長する	⑦夫婦の愛情が深まる	⑧その他	⑨良いと思うところはない	⑩わからない	計
父親	7	5	0	0	0	48
母親で子ども1人	14	4	0	0	0	77
母親で子ども2人	10	4	0	0	0	62
母親で子ども3人以上	12	8	0	0	0	69
計	43	21	0	0	0	256
	17%	8%	0%	0%	0%	100%

全体として「①家庭が明るくなる」が約19%、次いで「⑥子育てを通じて自分も精神的に成長する」が約17%となっている。

ヒアリングでの意見

- 子どもの笑顔に会えるだけで毎日楽しい（子ども１人母）
- 子どもがいると明るくていい（子ども２人母）
- 子どもが３人になったら子育てが楽しい。大変なことも多いが、３人できてからは何事も何とかなると思うようになった。（子ども３人母）
- 子育ては楽しくない。子育ては大変だと思う。それでも子どもといるのが楽しい。（子ども２人父）

28	さらに子どもを生もうとするにあたっての課題についてあてはまるものをすべて選択してください。 ①子育てや教育にお金がかかりすぎる②保育サービスが整っていない③雇用が安定しない④働きながら子育てができる職場環境がない⑤自分の昇進・昇給に差し支える⑥家が狭い⑦子どもがのびのび育つ社会環境でない⑧自分または配偶者が高年齢⑨これ以上、自分または配偶者が育児の心理的、肉体的負担に耐えられない⑩妊娠・出産のときの身体的・精神的な苦痛⑪健康上の理由⑫配偶者の家事・育児の協力が得られない⑬その他（　　）⑭特にない

<アンケート>

	①子育てや教育にお金がかかりすぎる	②保育サービスが整っていない	③雇用が安定しない	④働きながら子育てができる職場環境がない	⑤自分の昇進・昇給に差し支える	⑥家が狭い	⑦子どもがのびのび育つ社会環境でない
父親	9	0	1	1	0	4	1
母親で子ども1人	6	0	6	7	1	1	1
母親で子ども2人	6	0	0	4	1	1	1
母親で子ども3人以上	9	1	4	1	0	1	1
計	30	1	11	13	2	7	4
	25%	1%	9%	11%	2%	6%	3%

	⑧自分または配偶者が高年齢	⑨これ以上、自分または配偶者が育児の心理的、肉体的負担に耐えられない	⑩妊娠・出産のときの身体的・精神的な苦痛	⑪健康上の理由	⑫配偶者の家事・育児の協力が得られない	⑬その他	⑭特にない	計
父親	4	0	2	1	0	0	1	24
母親で子ども1人	7	3	1	2	2	1	1	39
母親で子ども2人	8	3	1	2	0	0	1	28
母親で子ども3人以上	5	2	1	1	1	2	0	29
計	24	8	5	6	3	3	3	120
	20%	7%	4%	5%	3%	3%	3%	100%

さらに子どもを生もうとするにあたっての課題については、「①子育てや教育にお金がかかりすぎる」が約25%で最も多く、次いで「⑧自分または配偶者が高年齢」が約20%となっている。

ヒアリングでの意見

- 保育料の軽減。子どもが小さい間は、おむつ代や洋服代などの出費もかさむうえに、保育料の負担が大きいこと（子ども３人母）
- 将来の進学に対し、金銭的に大丈夫かと不安（子ども２人父）
- 不妊治療費にお金がかかる（子ども１人母）
- 子どもを生み始める時期が遅いと、欲しいと思っていても２人、３人と生むのは難しくなる（子ども１人母）
- 子どもか、自分のキャリアをとるかを考えている人が多いのではないか（子ども２人母）
- 休みが取りやすい職場環境づくり（子ども２人母）
- 育児休暇の取りやすい環境が必要（子ども３人母）
- 経済的なこともあるが、３人を生むという覚悟が必要（子ども２人父）

29	希望どおり、子どもを生むための施策として、どのような施策が役に立つと思いますか。３つまで選択してください。 ①保育所の時間延長など、多様な保育サービスの充実②保育料等の支援、軽減③教育費の支援、軽減④小児医療の充実⑤小学校入学後の放課後の預かり時間の改善⑥育児休業を取りやすい職場環境の整備⑦職場復帰後、子育てと仕事の両立がしやすい職場環境の整備⑧再就職の支援⑨子育て相談施設等の充実⑩子育てについて若いころからの教育⑪その他（　　）

<アンケート>

	①保育所の時間延長など、多様な保育サービスの充実	②保育料等の支援、軽減	③教育費の支援、軽減	④小児医療の充実	⑤小学校入学後の放課後の預かり時間の改善
父親	1	5	7	4	4
母親で子ども1人	1	8	5	5	5
母親で子ども2人	4	6	5	3	5
母親で子ども3人以上	3	9	9	4	8
計	9	28	26	16	22
	6%	18%	17%	10%	14%

	⑥育児休業を取りやすい職場環境の整備	⑦職場復帰後、子育てと仕事の両立がしやすい職場環境の整備	⑧再就職の支援	⑨子育て相談施設等の充実	⑩子育てについて若いころからの教育	⑪その他	計
父親	0	1	1	0	1	3	27
母親で子ども1人	2	13	6	2	1	2	50
母親で子ども2人	1	6	4	0	3	1	38
母親で子ども3人以上	1	3	2	0	0	1	40
計	4	23	13	2	5	7	155
	3%	15%	8%	1%	3%	5%	100%

希望どおり子どもを生むための施策として、「②保育料等の支援、軽減」が約 18%、「③教育費の支援、軽減」が約 17%、「職場復帰後、子育てと仕事の両立がしやすい職場環境の整備」が約 15%となっている。

ヒアリングでの意見

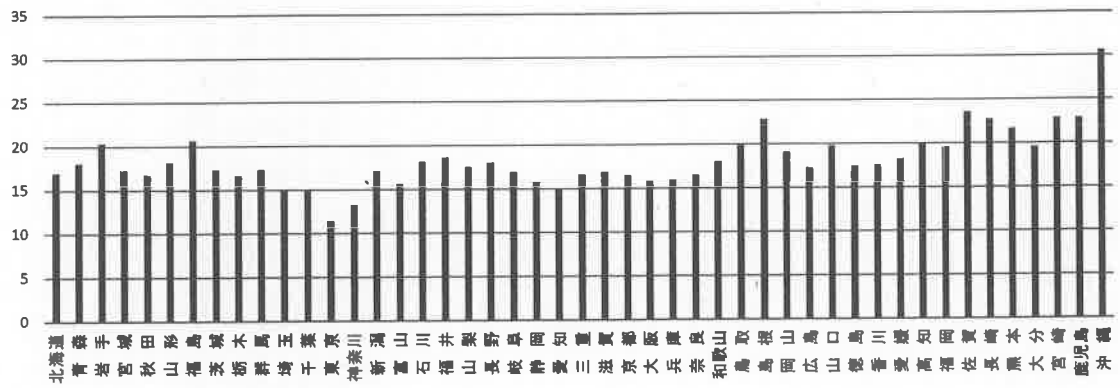
- 教育費の無料化（子ども１人母）
- 子育てにかかる経費はすべて無料にして欲しい（子ども３人母）
- 子どものために休みやすい職場環境の整備（子ども１人母）
- これから結婚する人や若い子に子どもを持つことの意義を知ってもらうことが重要（子ども１人母）
- 若いころから子どもとのふれあいをすることが大切（子ども２人母）
- 子どもを持てる適切な年齢について、理解できるよう若い人への教育も必要（子ども２人母）
- 女性もキャリアが中断しないような職場環境づくりや、ゆとりともった働き方ができる環境が大切（子ども２人父）
- 子育てが終わった母親の再就職への支援（子ども１人母）
- 若い人にはもっと結婚や子どもを持つことがいいことだという意識を持たせること（子ども２人父）
- 独身の人は今の方が楽しく、結婚や子育てはもういいと思ってしまうのではないか（子ども２人父）

子育て家庭に対する支援施策にかかる基礎調査分析報告（第三子以降出生比率の規定要因）

富山大学
中村真由美

【スライド２】

第三子以降出生比率（平成23年）



人口動態調査 (2011)

富山県は低い方から6番目。東京、神奈川、千葉、埼玉、愛知という大都市圏に続いて6番目に低い。何が原因になっているのか？

【スライド３】

地域ごとの子育て状況

	出産・子育て			子育ての支援				子供に関する意識			経済
	第三子出生比率 2	欲しい子供の数	地域の子育てのしやすさ 3	父方祖父母15分以内	母方祖父母15分以内	祖父母の支援（労働力提供） 4	支援の数 5	子供かけがえない 6	結婚したら子供を持つのは自然な流れ 7	子育てや教育にお金がかかりすぎる 8	地域の経済に不安 9
北海道	16%	2.2	58%	25%	26%	1.5	2.4	70%	68%	68%	63%
東北	17%	2.4	54%	38%	30%	1.7	2.5	72%	73%	71%	70%
北関東	16%	2.3	53%	36%	29%	1.7	2.4	68%	71%	72%	64%
首都圏	13%	2.2	54%	20%	19%	1.3	2.4	66%	67%	68%	49%
北陸	16%	2.4	59%	47%	31%	1.9	2.5	64%	70%	70%	60%
中部	16%	2.3	60%	38%	26%	1.6	2.4	67%	71%	70%	54%
近畿	16%	2.2	53%	28%	23%	1.4	2.4	67%	70%	69%	55%
中国	18%	2.4	60%	31%	28%	1.7	2.5	67%	70%	72%	62%
四国	18%	2.3	53%	38%	31%	1.6	2.4	68%	72%	75%	62%
九州・四国	21%	2.4	60%	29%	25%	1.6	2.4	71%	73%	73%	59%

内閣府「都市と地方における子育て環境に関する調査」データ[1]を筆者が分析した結果（第三子出生比率は人口動態調査から）。北陸は近居が多く、子育て支援も多い。上記の「子育て意識」については日本の両端で高くなる傾向がある。（上記の項目の詳細やデータについては注を参照のこと）

【スライド４】

北陸4県の子育て状況

	出産・子育て		子育ての支援				子供に関する意識			経済	
	第三子出生比率	欲しい子供の数	地域の子育てのしやすさ	父方祖父母15分以内	母方祖父母15分以内	祖父母の支援（労働力提	支援の数	子供かけがえない	結婚したら子供を持つのは	子育てや教育にお金がかか	地域の経済に不安
新潟	16%	2.4	47%	48%	33%	1.9	2.4	64%	69%	71%	61%
富山	15%	2.4	60%	52%	31%	1.9	2.6	67%	66%	65%	62%
石川	17%	2.4	66%	36%	27%	1.6	2.5	66%	75%	77%	64%
福井	18%	2.4	73%	58%	32%	2.7	2.4	56%	71%	66%	49%

【スライド５】

出生率の地域差についての仮説

1）経済的要因・地域の雇用の悪化（失業率＆非正規就業）

2）女性の就労状況（育休や保育所の待機児童などの問題）

3）子育て支援（親族など）

4）結婚や子育てに関する意識　　（松田2013）10

⇒これらは、出生率の地域差についての仮説であるが、第三子出生比率にもあてはまると考えられる。

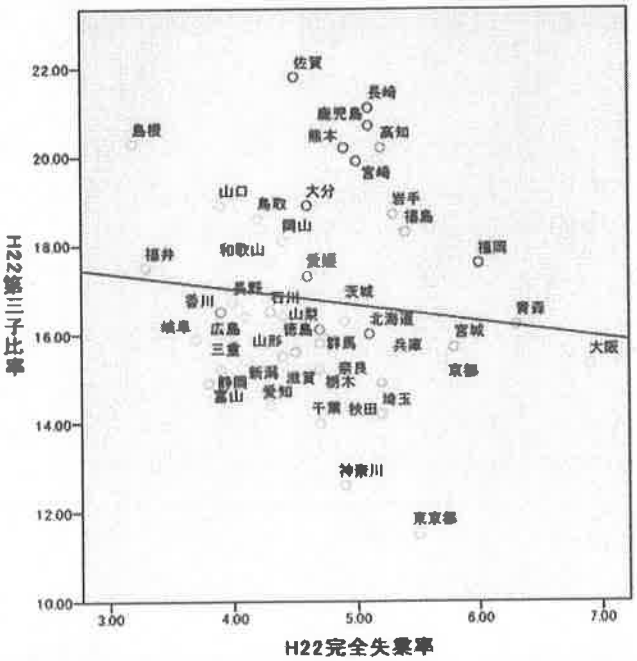
・第三子出生比率の規定要因について、上記の4つの仮説以外に、

その他の要因 **「第一子を持つ年齢」「産業構造（自営業比率）」「大学進学率」との関連**についても検証する

・まずそれぞれの要因と第三子出生率との関係をグラフで示す。次に、重回帰分析を行い、他の要因を一定にした際の、それぞれの要因の第三子出生率との関連を検証する

【スライド６】

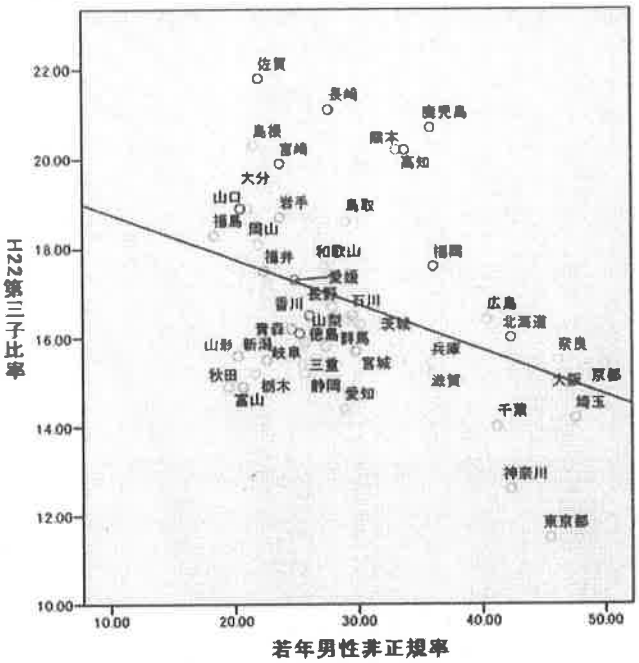
完全失業率と第三子出生比率



失業率が上がると第三子出生比率がやや下がる。ただし、関連はそれほど強くない(R2乗=0.014)。また富山では失業率は低い。（失業率は国勢調査、第三子比率は人口動態調査2010より。推計が安定している国勢調査年の推定値を用いた。以下すべて外れ値である沖縄を抜いて分析。）

【スライド７】

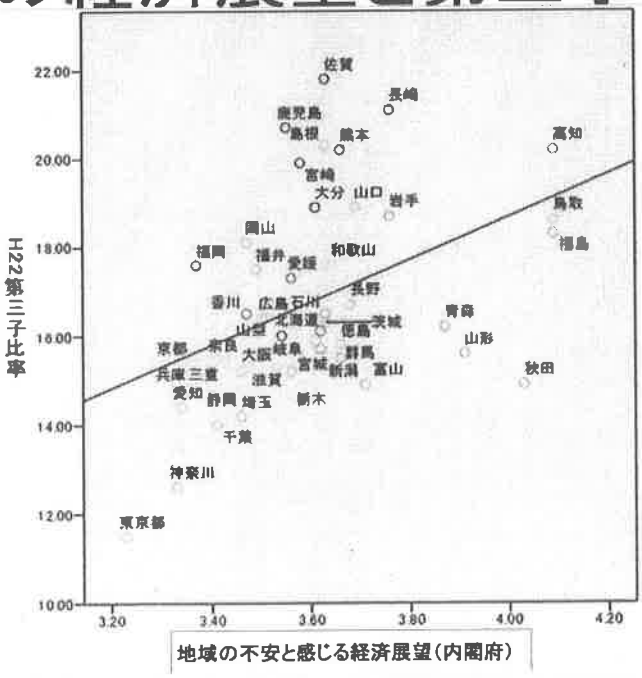
若年非正規率と第三子出生比率



若年男性（15-24歳）の非正規雇用比率が高くなると、第三子出生比率が下がる(R2乗=0.16)。ただし、富山は若年非正規率が低い。（非正規雇用比率は2007年度就業構造基本調査より。）

【スライド８】

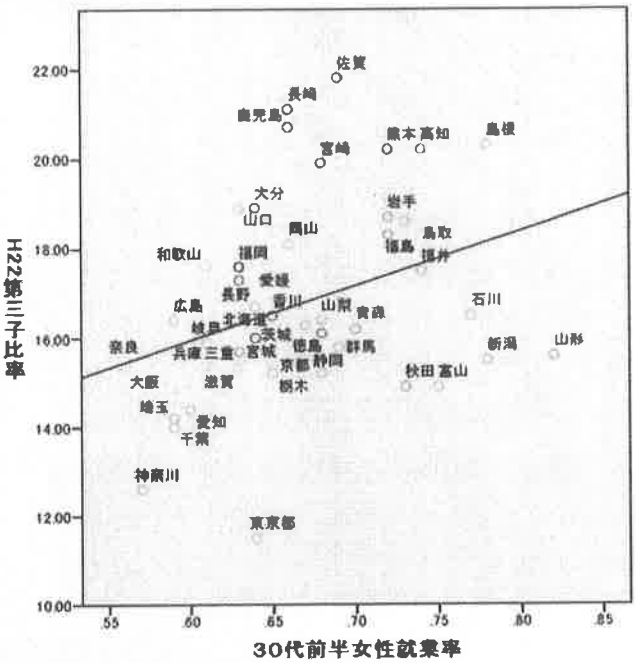
地域の経済展望と第三子出生比率



地域の将来の経済展望の値は、前述の内閣府「都市と地方における子育て環境に関する調査」データから計算した（詳細は注を参照のこと）。[11] 一見、不安と感じる都道府県の方が第三子出生比率が高いように見える（R2乗=0.196）。ただし、後述の多変量解析で他の要因の影響を一定にすると（統制すると[4]）、関係性は逆になる。

【スライド９】

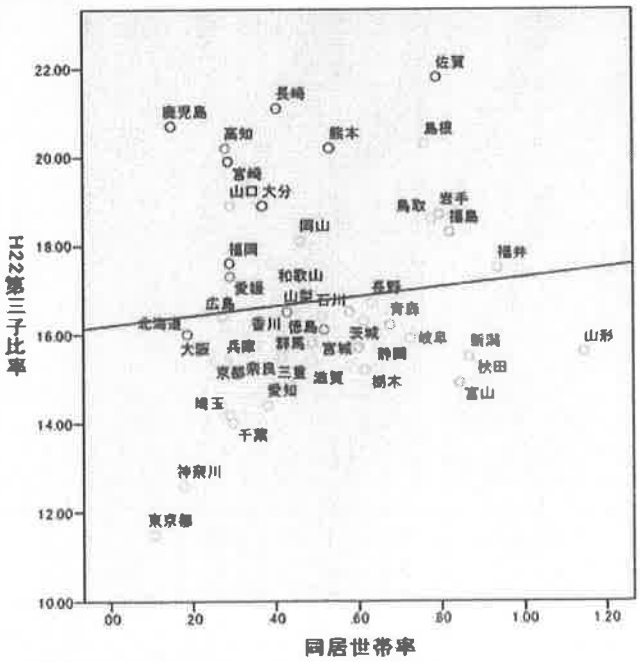
女性就業率と第三子出生比率



女性（30代前半）の就業率が高くなると、第三子出生比率が上がる (R2乗=0.117)。ただし、富山は女性就業率が高い。（女性就業率は2007年度就業構造基本調査より）

【スライド１０】

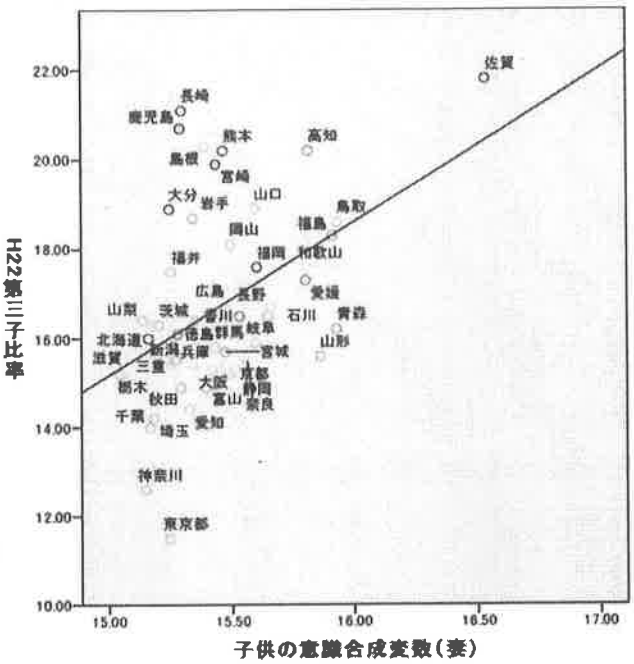
同居率と第三子出生比率



同居率が高くなるにつれて、第三子出生比率がやや高くなるが関係性は弱い（R2乗=0.014)。東北では同居率は高いが第三子比率が低い。富山は同居率が高い。（同居率は国勢調査2010より算出。）

【スライド１１】

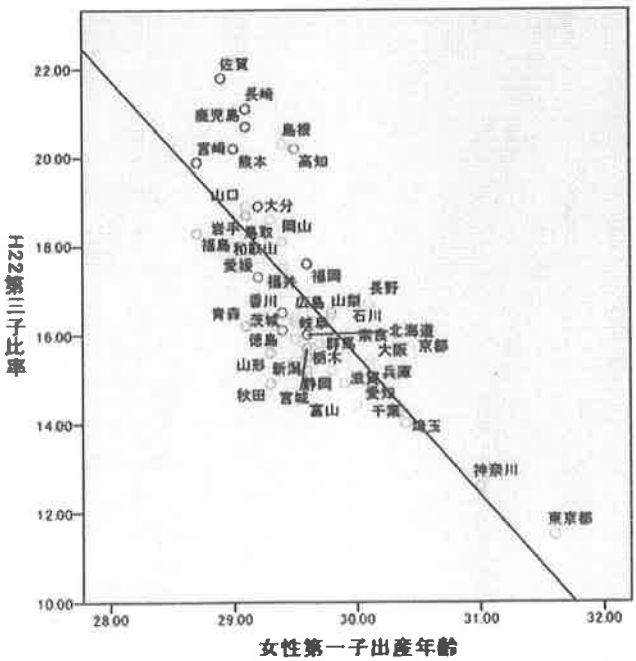
子供についての意識



「子供についての意識」は前述の内閣府の調査における関連設問の妻の回答を合併し、都道府県ごとの平均値にしたもの。値が高い方が強い同意を示す（R2乗=0.196）。実際の設問項目については注を参照のこと。[12]

【スライド１２】

第一子出産年齢



第一子出産年齢が高い都道府県ほど第三子出生比率は低く、その関連は強い(R2乗=0.61)。出産年齢の出所は人口動態調査。富山は第一子出産年齢が大都市圏に並んで高い。

【スライド１３】

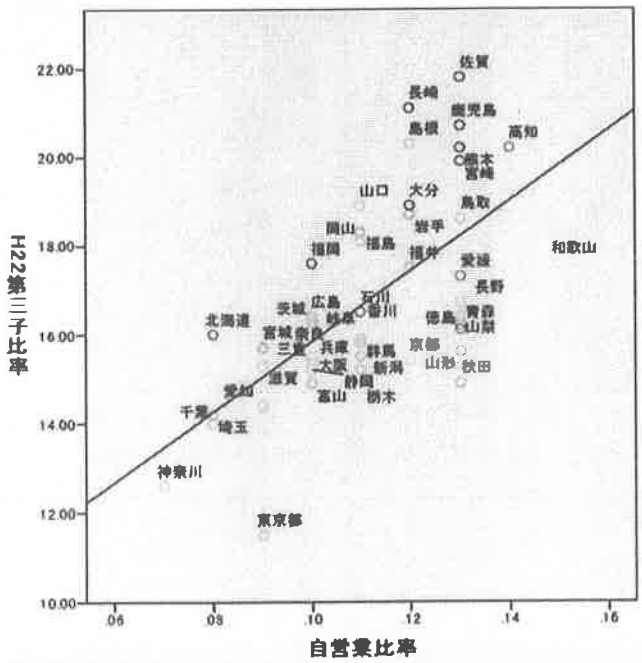
出産間隔の重要性

	第三子比率		妻初婚年齢		妻第一子出産年齢		妻第二子出産年齢		妻第三子出産年齢		妻1子から2子の間		妻2子と3子の間		妻初婚年齢と第三子出産年齢の差	
		降順		昇順		昇順		昇順		昇順		昇順		昇順		昇順
新潟	15.5	32	28.7	32	29.6	27	31.8	31	33.3	35	2.2	41	1.5	26	4.6	37
富山	14.9	41	28.8	34	29.9	36	32	37	33.7	44	2.1	33	1.7	40	4.9	47
石川	16.5	20	28.6	21	29.8	33	31.9	34	33.5	39	2.1	30	1.6	36	4.9	46
福井	17.5	17	28.5	17	29.4	16	31.5	22	33.2	30	2.1	33	1.7	40	4.7	44

・北陸は出産間隔をあける傾向にある（特に第二子と第三子の間）。
・富山は北陸の中でも第一子出産年齢が遅い。その上、北陸に特徴的な出産間隔を取ることから、第三子出産年齢は44位と首都圏並みに遅くなっている。
・高齢で産む傾向が出生率の少なさにも影響している可能性がある。

【スライド１４】

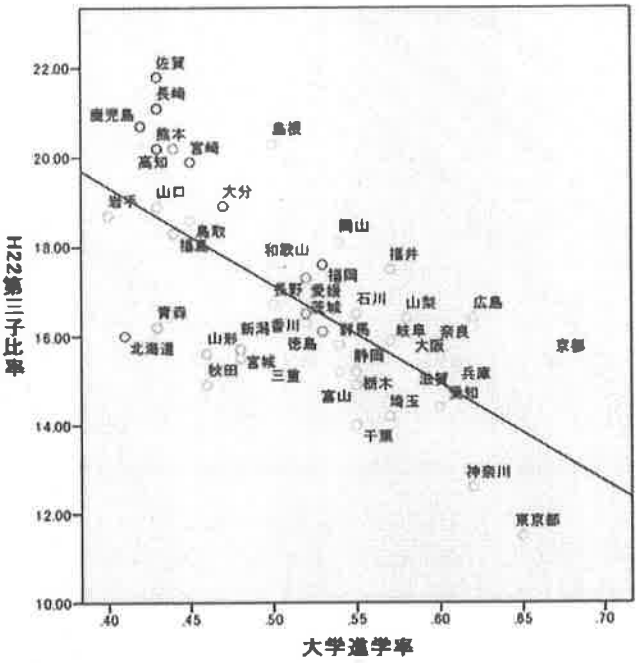
自営業と第三子出生比率



自営業比率の高い都道府県ほど、第三子出生比率は高い(R2乗=0.409)。自営業は住居と職場が近接し、子育てしやすい環境であることや、資産や家業継承者として子供への期待が高いことが影響しているとされる（経産省2005など）。[13] 富山は自営比率が非常に低い。

【スライド１５】

大学進学率



大学進学率が上がると子育てコストが増える（教育費の上昇）。また、高学歴化は結婚・出産タイミングを遅らせ、意識に変化をもたらす。これらのことから、第三子出生比率に影響していると考えられる。大学進学率は学校基本調査(2010)より。

【スライド１６】

第三子出生比率の規定要因（都道府県レベルのWLS分析）

	B	標準回帰係数	
（定数）	.953		***
女性初婚年齢	.024	.452	
女性第一子出産年齢	−.043	−1.143	**
大学進学率	−.123	−.328	*
30代女性就業率	.012	.023	
地域の不安な経済展望	−.051	−.327	**
同居率	−.015	−.116	
自営業率	.394	.247	*

・前述の要因は互に相関している可能性があるので、重回帰分析(重み付き推定WLS)による検証を行った。[14]
・重回帰分析は複数の要因の影響を、他の要因の影響を一定にしながら、同時に推定する手法である。
・従属変数（説明しようとしている結果）は都道府県ごとの「第三子出生比率」である。
・＊印がついている項目が「第三子出生比率」に対して偶然とは見なせないレベルで（「有意に」）関わっている項目である。
・項目の係数（Bや標準回帰係数）の符合が正であれば、その項目の値が増えるほど、第三子出生比率も増える。
・標準回帰係数はその項目が第三子出生比率に与えるインパクトの大きさを示す。

【スライド１７】

第三子出生比率の規定要因（都道府県レベルのWLS分析）続き

・第一子出産年齢が高い都道府県ほど、第三子出生比率は下がる。この要因のインパクトが一番大きい。（⇒富山は第一子出産年齢が高い）

・大学進学率が高い都道府県ほど、第三子出生比率は低い。（これは高学歴化による子育てコストの増加や、結婚タイミングの遅延、意識の変化等を通じて影響していると考えられる。）

・地域の経済展望が不安と感じる県は第三子出生比率が低い。

・自営業比率が高い県は第三子出生比率が高い。（⇒富山は自営業比率が非常に低い）

⇒富山は第一子出産年齢と自営業比率が影響している

【スライド１８】

なぜ自営業比率が影響するのか？

・自営業では住居と職場が近く、働く時間にも自由がききやすく、子育てと仕事が両立しやすい。

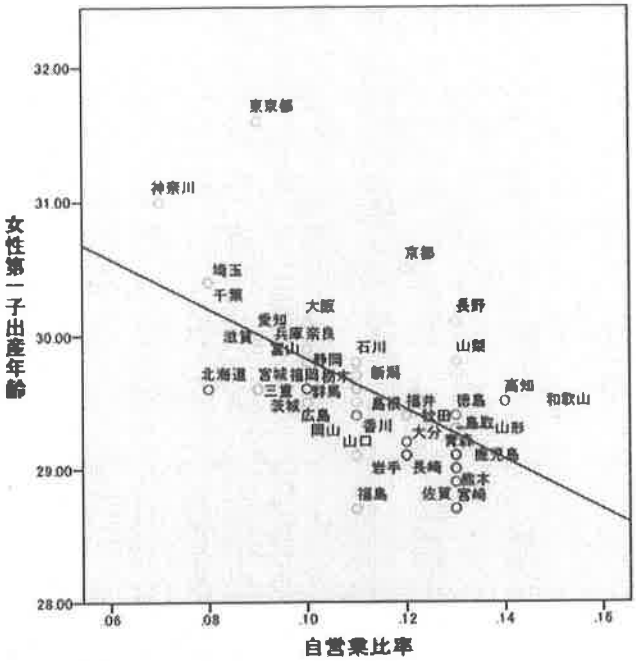
・自営業は資産や家業の継承者としての子供への期待が高いことから、子供に関する意識も異なる。

・自営業比率の多い都道府県では、第一子出産年齢も低い（両立しやすさや、意識も原因になっていると考えられる）。

⇒自営業の働き方の良い部分を、企業でも取り入れる必要がある。

【スライド１９】

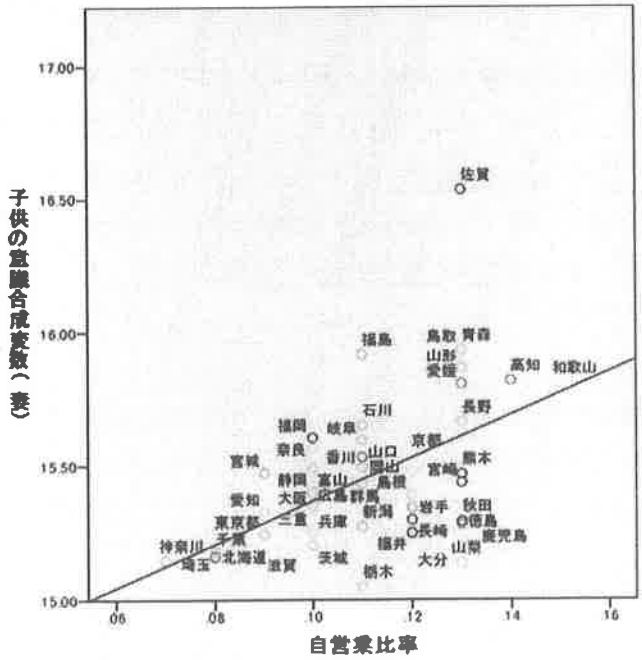
自営業比率と第一子出産年齢



自営業比率は女性の第一子出産年齢とも関わっている(R2乗=0.368)。自営業比率が高いほど、第一子出産年齢が低い。ただし、自営業比率の影響を一定にしてもなお、第一子出産年齢は第三子出生比率に影響している。

【スライド２０】

自営業比率と子供についての意識



自営業比率が高い都道府県では、前述の「子供についての意識」の回答の値が高い傾向にある（R2乗=0.254)。

【スライド２１】

提言

＊経済面における施策

・男女双方の就労状況の改善（家庭と仕事の両立をしやすくする。自営業の働き方の良い点を企業でも取り入れる。フレックスタイム、短時間勤務、在宅勤務等の柔軟な働き方の企業における導入推進。育休をより取りやすくする（比較的短期に連続して取る場合含め）。男女共に労働時間を短くする。そのために企業には（罰則ではなく）インセンティブ（助成や税制上の）を与える。妻だけでなく、夫にも適用。）

・子育ての経済的負担の軽減（乳幼児期だけでなく、青少年期も含め。）

＊出産年齢についての施策

・第一子出産年齢を下げる施策 （住宅の優先提供、柔軟な働き方の推進）

・出産間隔を短くする施策

＊近居・同居を進める施策（さらなる「集住化政策」）

＊親以外からの支援の拡充（かつて祖父母が担っていた子供の送り迎え、 預かり、食事・家事の支援というような支援を公的支援他が代替していく）

＊子供に関する意識を育てる （伝統的な価値観をそのまま復活させるのではなく、地域全体で子育てを支援するような、新たな意識を醸成）

＊ただし、意識を変えるのはたやすくない。両立のしやすさの向上（企業への働きかけ）、子育て負担の軽減、特に出産年齢と間隔を下げる施策により重点をおく

【スライド２２】

注

1. 内閣府のデータの詳細は内閣府統括官 (2012)『都市と地方における子育て環境に関する調査報告書』を参照。
2. 人口動態調査(2011)
3. 内閣府「都市と地方における子育て環境に関する調査」データにおいて、「地域の子育てのしやすさ」(Q51)について「とてもしやすい」＋「どちらかといえばしやすい」と答えた人の割合。以下、注9までは内閣府の当該データの妻の回答から算出。
4. Q39（妻の親）とQ40（夫の親）について「子供の相手・預かり」「送り迎え」「食事の支援」「家事の支援」のそれぞれについて、選択された数の合計
5. 「子育ての相談や子どもを世話してくれる人」（Q55）について、夫、親、親族、友人、近所の人、職場の人、公的施設、その他のうち、選択された数の合計
6. Q30_8「子供はかけがえのない存在である」について「あてはまる」と答えた人の割合
7. Q30_5「子供を持つのは自然な流れ」について「あてはまる」＋「ややあてはまる」と答えた人の割合
8. Q59「子供を増やす上での課題」で「子育てや教育にお金がかかりすぎる」を選択した人の割合
9. Q54「地域の経済的展望」で「大変不安に感じる」＋「多少不安に感じる」と答えた人の割合
10. 松田茂樹(2013)『少子化論』勁草書房
11. 前述の内閣府データのQ54「地域の経済的展望」について5段階で評価したものを、不安が強いほど値が大きくなるようにリコードしたもの
12. 上記の内閣府のデータのうち、子供に関する意識を5段階で聞いた4つの設問（Q30_5「結婚したら子どもを持つのは自然な流れである」、Q30_6「一人っ子より兄弟がいる方が望ましい」、Q30_7「子どもは跡取りである男の子を1人は産んだ方が良い」、Q30_8「子育ては大変だが、子どもはかけがえのない大切な存在である」）の回答を合計し、同意が強いほど値が大きくなるようにリコードしたもの。
13. 経済産業省『平成17年版　中小企業白書』.
14. データの出所は以下の通りである。「第三子以降出生比率」「女性初婚年齢」「女性第一子出産年齢」は人口動態調査（2010）。「大学進学率」は学校基本調査(2010)。「30代女性就業率」は就業構造基本調査(2007)。「同居率」「自営業率」は国勢調査(2010)。「地域の悲観的経済展望」は前述の内閣府データのQ54「地域の経済的展望」について5段階で得られた回答を不安が強いほど高い値になるようリコードしたもの。

「子育て支援サービスに関する調査」結果の概要について

平成 26 年 1 月 17 日
知事政策局
厚生部

1　趣旨

子育て支援・少子化対策条例に基づく新たな基本計画の策定の基礎資料及び子育て家庭に対する支援施策について検討するため、県内の子育て家庭の保護者を対象に、子育て支援サービスに関する調査を実施したもの。

2　調査対象

（1）対象者　　県内の未就学児を持つ保護者
（2）調査時期　　平成 25 年８月 12 日～平成 25 年９月 13 日
（3）標本数　　1,000（保育所 540、幼稚園 225、子育て支援センター等 235）
（4）回答数　　797（79.7%）
※あわせて、小学生を持つ保護者についても調査を行った。
標本数　360、回答数　294（81.7%）

3　結果概要

（1）子育て支援サービスへの満足度（「満足している」＋「ある程度満足している」の割合）は高い。
幼稚園 86.4%　保育所 86.3%　地域子育て支援センター90.2%　等
〔小学生を持つ保護者：放課後児童クラブ 66.6%　とやまっ子さんさん広場 75.0%　等〕

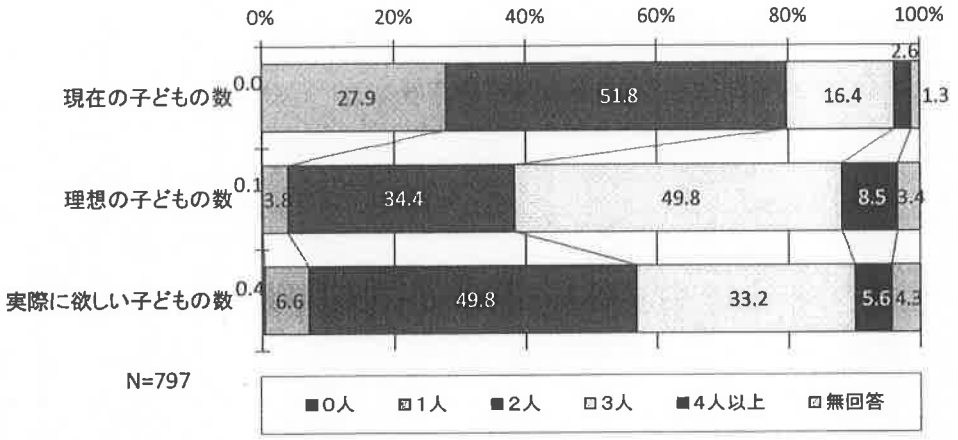
（2）身近で利用したいサービスとして、「子育てアドバイザー」「子育てサークル」へのニーズが高い。
特に若い親のニーズが高い。

（人、%）　【複数回答】

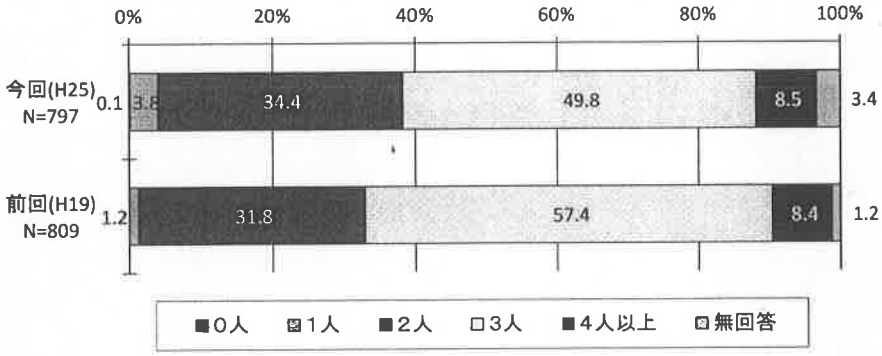
		回答者数	子育て中の母親が集うサークル	子育てについて相談にのってくれる専門のアドバイザー	育児についての実習など父母のための教室	育児や家事を代行してくれる訪問サービス	親にかわり子どもを保育園等に送り迎えする子育てタクシー	その他	特にない	無回答
全体		797	26.7	27.2	7.3	15.2	17.3	7.0	31.7	4.1
年齢	～19歳	1	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-
	20～24歳	7	42.9	42.9	28.6	14.3	-	-	42.9	-
	25～29歳	90	44.4	34.4	11.1	8.9	13.3	5.6	30.0	3.3
	30～34歳	264	32.2	28.8	10.2	14.4	15.9	6.1	31.4	2.7
	35～39歳	284	20.1	21.5	4.2	17.6	20.8	9.5	31.3	7.4
	40歳～	150	18.0	30.0	4.7	16.0	16.7	5.3	33.3	1.3
現在の子どもの数	1人	222	39.6	40.1	14.4	14.9	14.4	6.3	20.3	1.8
	2人	413	22.5	24.5	5.1	14.3	18.6	7.7	37.5	4.1
	3人	131	19.1	16.8	3.1	19.1	16.8	6.1	35.1	3.8
	4人以上	21	28.6	19.0	4.8	19.0	33.3	4.8	33.3	-

（３）理想の子どもの数は、約半数が「３人」。しかし実際に欲しい子どもの数は、約半数が「２人」と、ギャップがある。実際にほしい子どもの数を「３人」とする割合は、前回より増加している。

≪子どもの数≫



≪実際に欲しい子どもの数　前回比較≫



（４）子どもを増やすにあたっての課題は、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」がトップ。この回答割合は、母親が主婦でも常勤でもほぼ変わらない。

（人、%）　【複数回答:3】

		回答者数	子育てや教育にお金がかかりすぎる	保育サービスが整っていない	雇用が安定しない	働きながら子育てができる職場環境がない	自分の昇進・昇格に差し支える	家が狭い	子どもがのびのび育つ社会環境でない	自分または配偶者が高年齢	これ以上、自分または配偶者が育児の心理的、肉体的負担に耐えられない	妊娠・出産のときの身体的・精神的な苦痛	健康上の理由	配偶者の家事・育児への協力が得られない	その他	特にない	無回答
全体		797	74.8	11.7	15.7	40.9	1.1	11.4	11.2	22.5	18.3	11.3	3.6	11.7	7.4	1.4	2.4
母親の職業	主婦	243	72.8	11.5	15.2	39.1	-	12.8	12.3	17.3	16.0	13.2	4.9	10.7	6.2	1.6	3.3
	学生	1	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
	勤め（常勤）※育児休業中含む	262	73.3	14.5	13.0	41.2	2.7	9.2	9.9	26.7	21.0	10.3	3.4	13.7	9.9	0.8	0.4
	勤め（パート、アルバイト）	226	78.8	8.4	20.4	43.4	0.4	11.5	11.1	21.7	19.5	10.2	2.7	11.9	6.2	1.8	2.7
	自営業・家業	34	58.8	8.8	5.9	32.4	2.9	11.8	8.8	29.4	17.6	20.6	2.9	8.8	8.8	2.9	11.8
	その他	5	60.0	40.0	20.0	40.0	-	20.0	-	40.0	-	20.0	-	-	-	-	-

（5）子育てを支援する施策としては、「保育料等の支援、軽減」の割合が高く、次いで、「子育てと仕事の両立がしやすい職場環境の整備」、「教育費の支援、軽減」となっている。母親の職業が常勤では、「子育てと仕事の両立がしやすい職場環境の整備」がトップとなっている。

（人、%）　【複数回答:3】

		回答者数	保育所の時間など、多様な保育サービスの充実	保育料等の支援、軽減	教育費の支援、軽減	小児医療の充実	小学校入学後の放課後の預かり時間の改善	育児休業を取りやすい職場環境の整備	職場復帰後、子育てと仕事の両立がしやすい職場環境の整備	再就職の支援	子育て相談施設等の充実	子育てについて若いころからの教育	その他	無回答
全体		797	27.1	56.8	40.4	21.5	33.1	17.8	44.4	19.8	3.5	7.0	2.8	3.3
母親の職業	主婦	243	27.6	58.0	44.4	21.4	19.3	18.1	42.0	29.6	5.3	5.8	2.5	3.7
	学生	1	-	-	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	勤め（常勤）※育児休業中含む	262	32.8	53.1	35.1	15.6	44.3	21.0	55.0	8.0	2.7	6.5	4.6	1.9
	勤め（パート、アルバイト）	226	18.6	59.7	38.5	27.4	34.5	17.7	38.1	23.0	3.5	9.7	1.8	4.4
	自営業・家業	34	23.5	47.1	44.1	35.3	32.4	8.8	44.1	20.6	-	2.9	-	5.9
	その他	5	20.0	60.0	60.0	-	40.0	-	20.0	40.0	-	-	-	-

〔小学生を持つ保護者〕

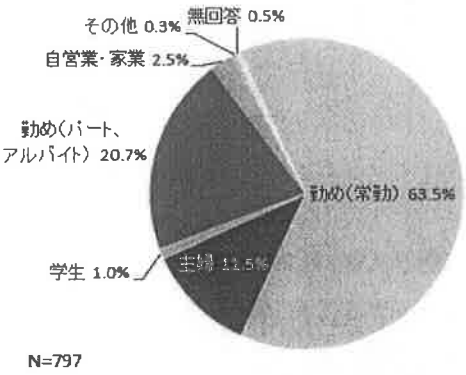
小学生を持つ保護者でも、高い割合を示す施策は変わらないが、「教育費の支援、軽減」がトップ。次いで「保育料等の支援、軽減」「子育てと仕事の両立がしやすい職場環境の整備」となっている。

（人、%）　【複数回答:3】

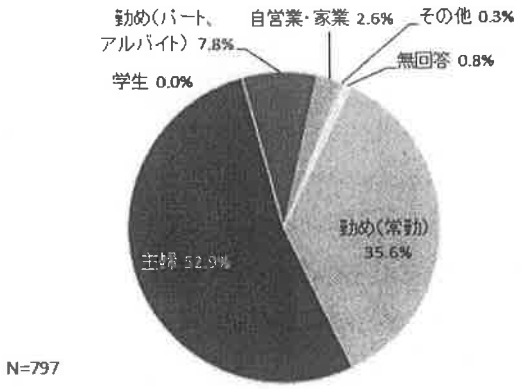
		回答者数	保育所の時間など、多様な保育サービスの充実	保育料等の支援、軽減	教育費の支援、軽減	小児医療の充実	小学校入学後の放課後の預かり時間の改善	育児休業を取りやすい職場環境の整備	職場復帰後、子育てと仕事の両立がしやすい職場環境の整備	再就職の支援	子育て相談施設等の充実	子育てについて若いころからの教育	その他	無回答
全体		294	27.9	41.8	46.6	29.6	31.3	20.4	38.4	20.1	3.7	5.8	3.4	2.0
母親の職業	主婦	39	20.5	46.2	48.7	28.2	20.5	12.8	33.3	28.2	10.3	5.1	5.1	-
	学生	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	勤め（常勤 ※育児休業中含む	102	28.4	39.2	41.2	28.4	43.1	26.5	54.9	15.7	1.0	3.9	4.9	1.0
	勤め（パート、アルバイト）	106	24.5	43.4	50.9	33.0	27.4	19.8	35.8	28.3	3.8	5.7	1.9	0.9
	自営業・家業	16	43.8	31.3	37.5	18.8	25.0	6.3	12.5	6.3	-	12.5	-	12.5
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

（６）母親の就業状況は、第１子出産を機に、常勤が減少（63.5%→35.6%）。パート・アルバイトも減少（20.7%→7.8%）。常勤を辞めた理由は、「家事・育児に専念するため自発的に」「仕事と育児の両立の難しさで」。

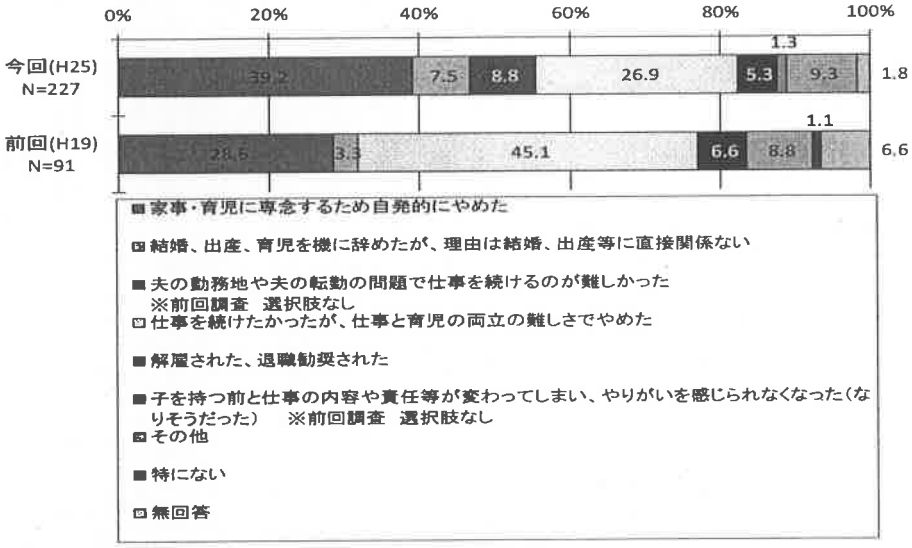
≪出産１年前の就業状況≫



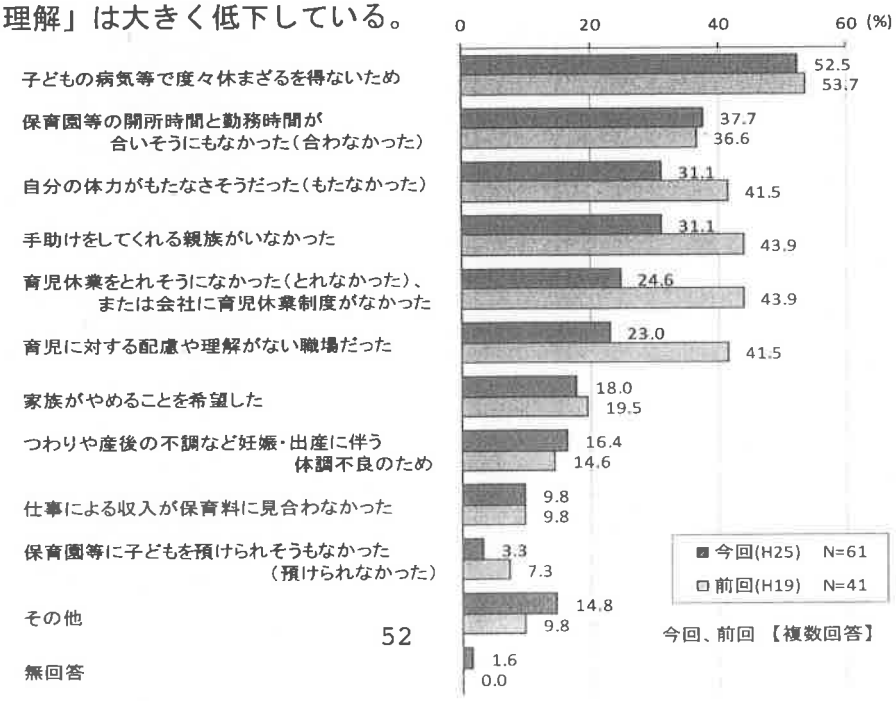
≪第一子出産１年後の就業状況　出産１年前の就業状況別≫



≪勤め（常勤）をやめた理由　前回比較≫

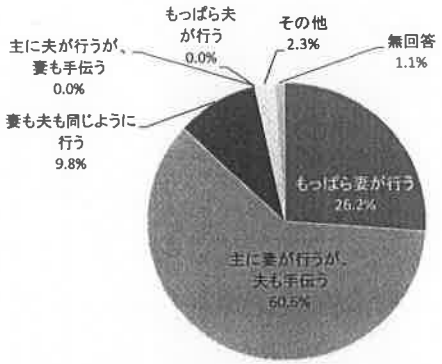


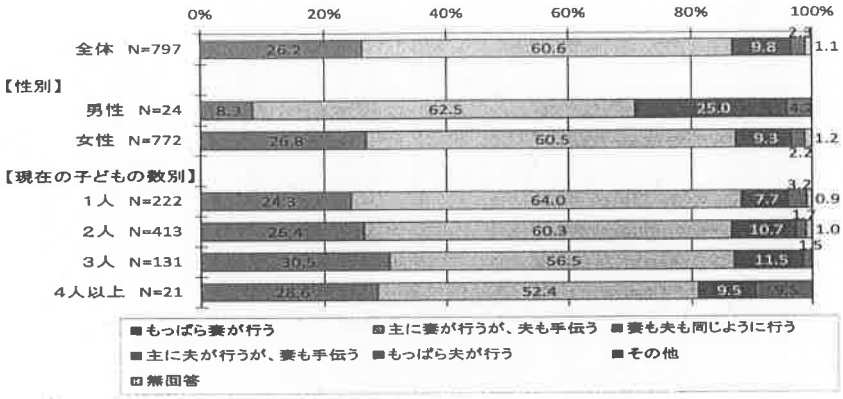
（７）（６）で、仕事と育児の両立の難しさでやめた方の理由は、前回同様、「子どもの病気等で休まざるを得ない」がトップ。一方で、「手助けをしてくれる親族がいない」「育児休業がとれない」「育児に対する職場の理解」は大きく低下している。



（８）子育てや家事の分担は、高い割合で妻が中心。なお、現在の子どもの数や実際に欲しい子どもの数との関連は見られない。

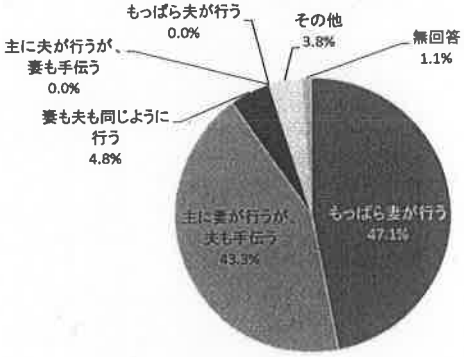
《子育て・子どもの世話》

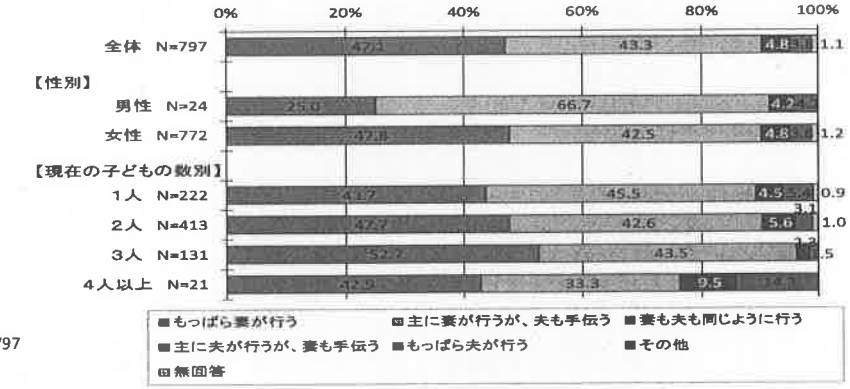




N=797

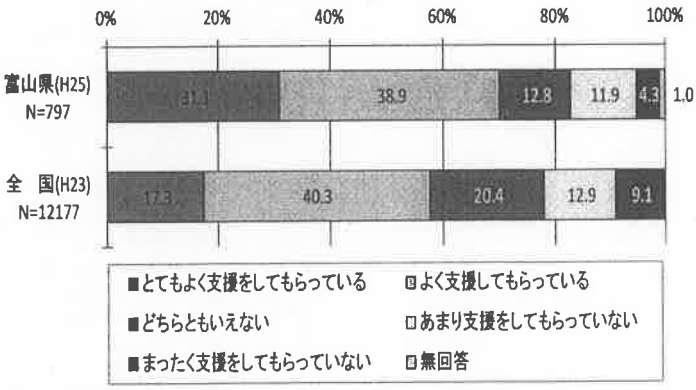
《家事》

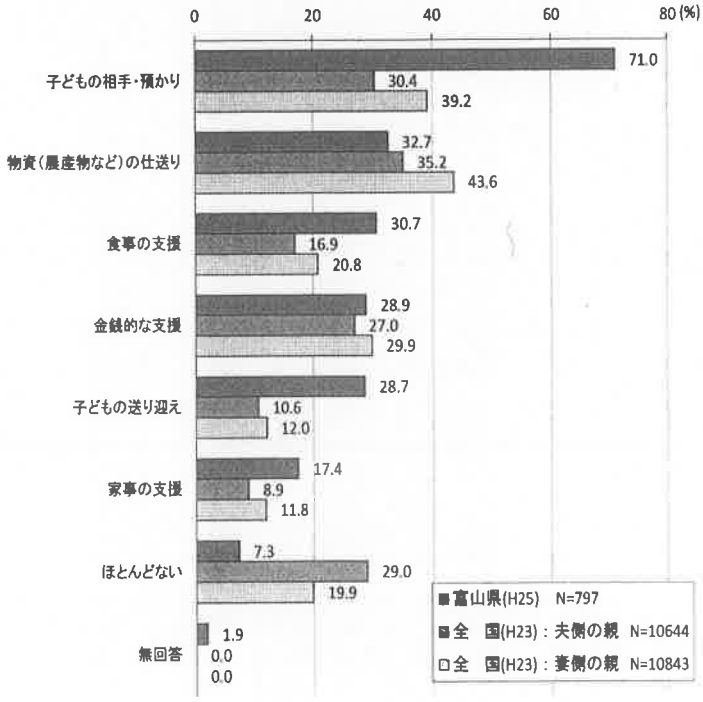




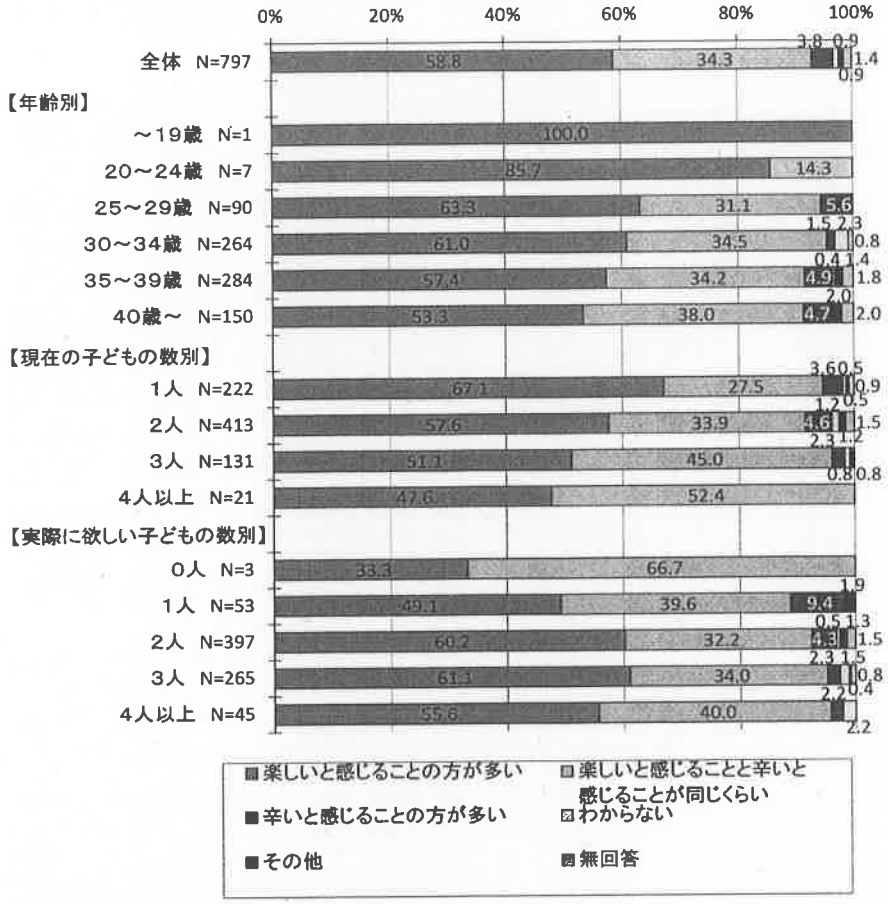
N=797

（９）子育てへの親からの支援は全国より高い割合で受けられている。しかも、子どもの相手・預かりや、食事の支援、送り迎えなど直接子どもの世話をする支援を受ける割合が高い。





・(10)「子育てが楽しい」と答えた人は58.8%で前回（H21：59.3%）とほぼ同程度。「楽しいと辛いが同じくらい」は34.3%。若い層や、実際に欲しい子どもの数が多い層で「楽しい」と答える人が多い。



(11) 子育てで負担・不安に思うことは、男女とも「子育ての出費」「将来の経済的負担」「自由な時間がもてない」。また、「身体的負担が大きい」「精神的負担が大きい」「仕事が十分にできない」は、男性より女性の割合が高く、その差は大きい。

（人、%）　【複数回答:3】

		回答者数	子育てによる身体的負担が大きい	子育てによる精神的負担が大きい	子育ての出費がかさむ	自分の自由な時間がもてない	夫婦で楽しむ時間がない	仕事が十分にできない	子育てが大変なことを職場の人が理解してくれない	子どもの病気	将来予想される子どもにかかる経済的負担	負担・不安に思うことはない	その他	無回答
全体		797	22.1	25.0	34.4	44.0	10.2	15.1	4.8	26.5	49.3	3.0	5.1	3.4
性別	男性	24	12.5	12.5	66.7	41.7	12.5	4.2	4.2	25.0	62.5	4.2	4.2	-
	女性	772	22.4	25.4	33.4	44.0	10.1	15.4	4.8	26.6	49.0	3.0	5.2	3.5

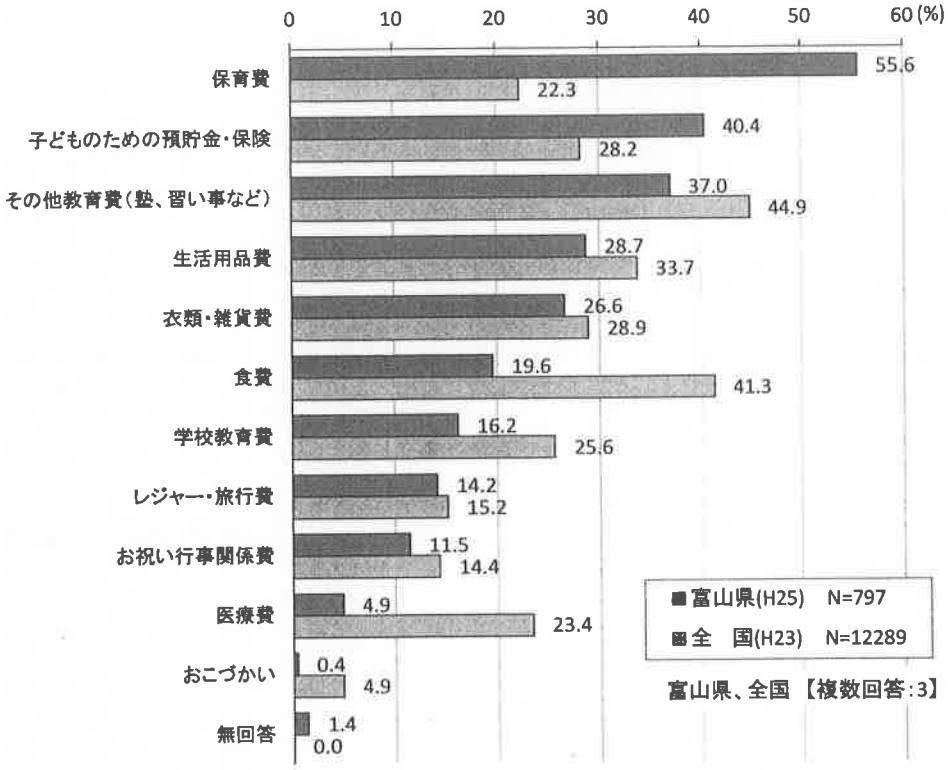
〔小学生を持つ保護者〕

「将来の経済的負担」「子育ての出費」の上位２項目は男女とも同じであるが、次いで、男性は「子どもの病気」、女性は「自由な時間が持てない」となっている。

①将来の経済的負担 60.5%、②子育ての出費 48.0%、③自由な時間が持てない 32.3%

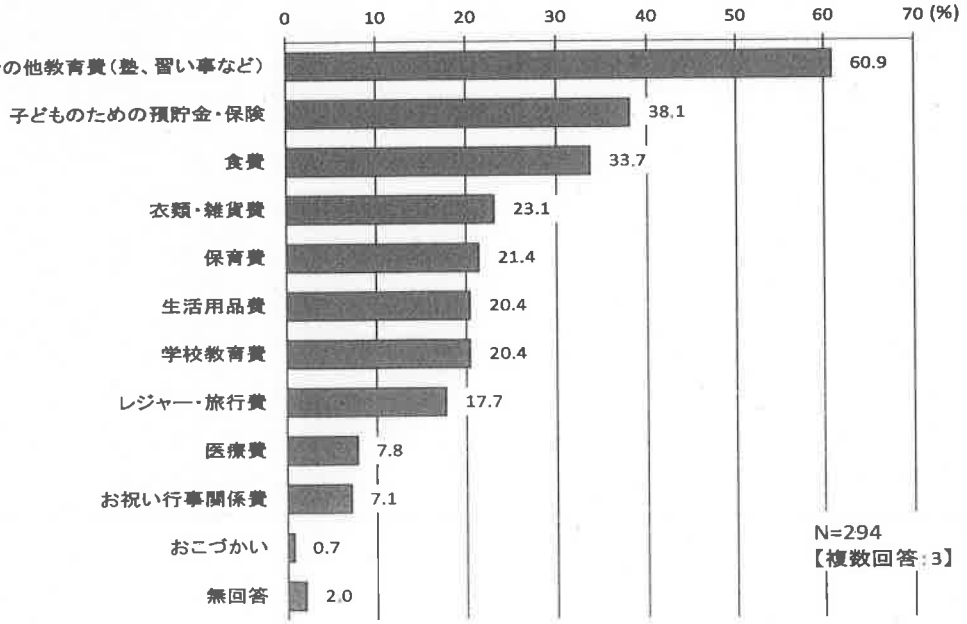
（男性　①将来の経済的負担 54.8%、②子育ての出費 38.7%、③子どもの病気 35.5%
女性　①将来の経済的負担 61.2%、②子育ての出費 49.0%、③自由な時間が持てない 33.5%）

(12) 子育て費用の中で負担が大きいと感じるものについては、「保育費」「子どものための預貯金・保険」を挙げる割合が全国より高い。他方、「食費」「医療費」等を負担と感じる割合は全国より低い。

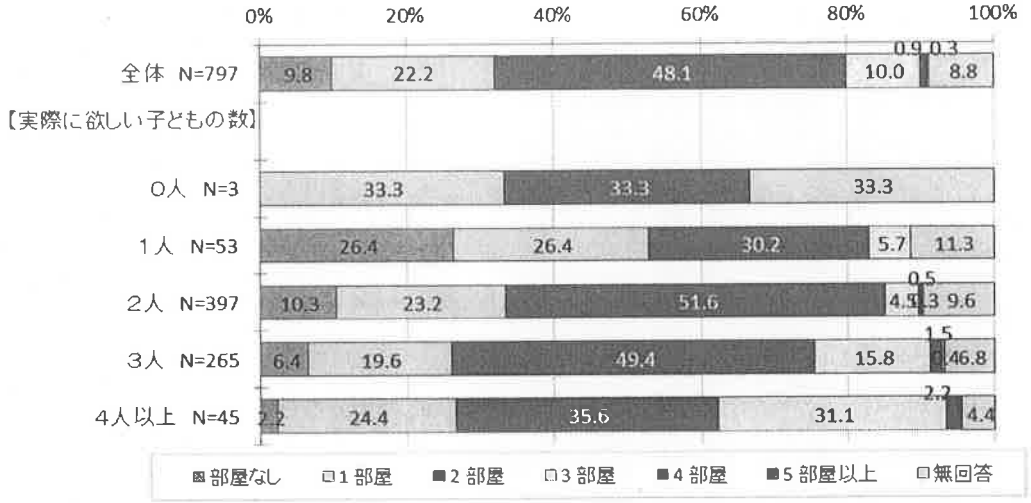


〔小学生を持つ保護者〕

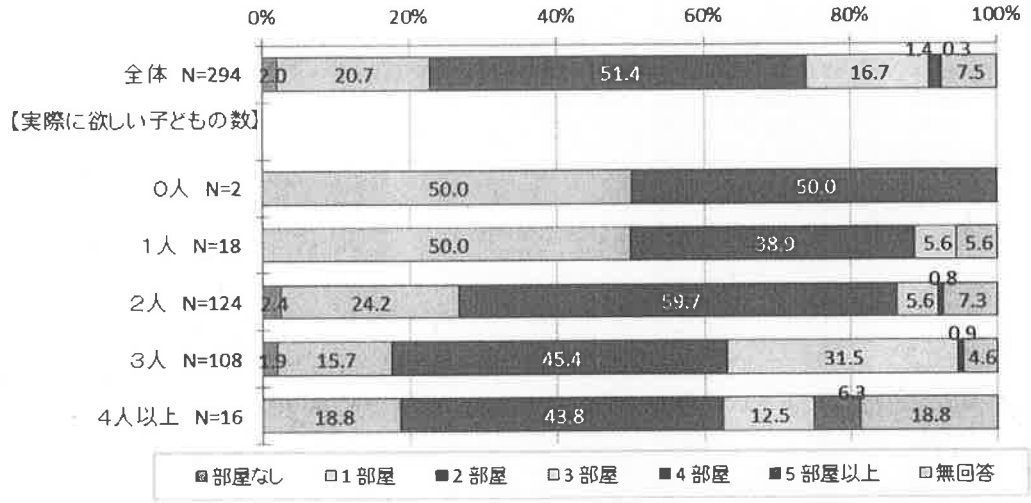
小学生を持つ保護者では、「その他教育費（塾、習い事など）」「子どものための預貯金・保険」への割合が高くなっている。



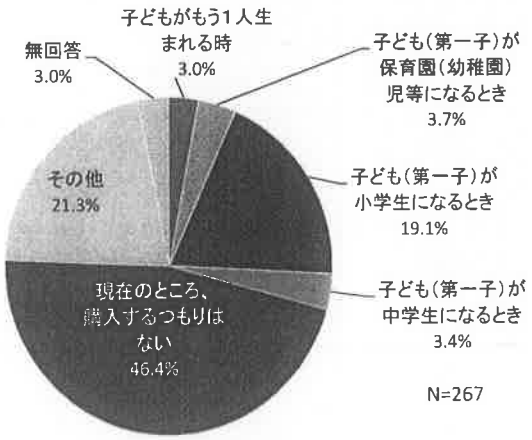
(13) 住居の状況については、子ども部屋として使える部屋数は、実際に欲しい子どもの数が多くなるほど多くなる傾向がある。



〔小学生を持つ保護者〕



(14) 持ち家以外に住む人が持ち家を購入しようとするタイミングは「第一子が小学生になるとき」が多い。



「子育て支援サービスに関する調査」

★ご回答は、該当の番号を○で囲んでください。
★「その他」を選ばれた場合は、具体的な内容を（　　）内にご記入ください。

【あなた自身のことについて】

F1　あなたの性別について、あてはまるものを選んでください。

１．男　　性　　２．女　　性

F2　あなたの年齢について、あてはまるものを選んでください。

１．～１９歳　　２．２０～２４歳　　３．２５～２９歳
４．３０～３４歳　　５．３５～３９歳　　６．４０歳～

F3　あなたのお住まいの市町村について、あてはまるものを選んでください。

１．富山市　　２．高岡市　　３．魚津市　　４．氷見市　　５．滑川市
６．黒部市　　７．砺波市　　８．小矢部市　　９．南砺市　　10．射水市
11．舟橋村　　12．上市町　　13．立山町　　14．入善町　　15．朝日町

F4　あなたの世帯について、あてはまるものを１つ選んでください。

１．夫婦とこどもの世帯
２．ひとり親とこどもの世帯
３．夫婦とこどもと祖父母（三世代）の世帯
４．ひとり親とこどもと祖父母（三世代）の世帯
５．その他の世帯

F5　あなたと配偶者の現在の職業について、あてはまるものをそれぞれ１つ選んでください。
※育児休業中の場合は「勤め（常勤）」を選んでください。

あなた自身	１．主婦・夫
	２．学生
	３．勤め（常勤）※育児休業中含む
	４．勤め（パート、アルバイト）
	５．自営業・家業
	６．その他（　　）

配偶者	１．主婦・夫
	２．学生
	３．勤め（常勤）※育児休業中含む
	４．勤め（パート、アルバイト）
	５．自営業・家業
	６．その他（　　）

【子育て支援サービスと子どもの数について】

子育て支援サービスの利用状況や満足度についてお伺いします。

子育て支援サービス		問1 現在、利用しているサービスはどれですか。あてはまるものすべて選んでください。	問2 利用しているサービスについて、満足度合いに最も近いものを1つ選んでください。					問3 問2で「あまり満足していない」「不満である」と回答された方にお伺いします。満足できない理由をそれぞれ2つまで選んでください。						
			満足している	ある程度満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	不満である	サービスの時間・期間が短い	世話や指導が行き届いていない	利用料金が高い	自宅から遠い	子どもがなじめない	他の親との交流が上手く行かない	その他
幼稚園	通常保育	1	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	7
幼稚園	延長保育	2	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	7
保育園（所）	通常保育	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	7
保育園（所）	延長保育	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	7
保育園（所）	一時預かり	5		2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	7
保育園（所）	休日保育	6	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	7
病児・病後児保育		7	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	7
認可外保育施設		8	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	7
事業所内保育施設		9	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	7
地域子育て支援センター		10	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	7
ファミリーサポートセンター		11	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	7
とやまっ子さんさん広場		12	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	7
とやま子育て応援団		13	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	7
放課後児童クラブ（学童保育）		14	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	7

問3へ

問４　問１の子育てサービスのほかに、身近で利用できればよいと思うものは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

１．子育て中の母親が集うサークル
２．子育てについて相談にのってくれる専門のアドバイザー
３．育児についての実習など父母のための教室
４．育児や家事を代行してくれる訪問サービス
５．親にかわり子どもを保育園等に送り迎えする子育てタクシー
６．その他（　　）
７．特にない

問５　平成27年度から質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供等をめざす「子ども・子育て支援新制度」が開始される予定となっており、現在、国においてこの新制度の具体的な内容等が検討されています。
あなたは、幼児期の子どもの教育・保育の質の向上のため、認定こども園・幼稚園・保育所等に対し、どのようなことを期待しますか。あてはまるものを１つ選んでください。

１．建物や設備の充実
２．職員配置の充実
３．職員の資質の向上
４．特色ある学校教育・保育の実施
５．その他（　　）
６．特にない

問６　現在の子どもの数は何人ですか。また、あなたの理想とする子どもの数、実際に欲しい子どもの数は何人ですか。あてはまるものをそれぞれ１つ選んでください。
また、出生順に子どもの年齢、第一子出産時の母親の年齢をご記入ください。

	０人	１人	２人	３人	４人以上
現在の子どもの数	1	2	3	4	5
理想の子どもの数	1	2	3	4	5
実際に欲しい子どもの数（現在の子どもの数を含む）	1	2	3	4	5

出生順	子どもの年齢	出産時の母の年齢
第一子	歳	歳
第二子	歳	
第三子	歳	
末子（４人以上の場合）	歳	

問７　子どもを増やすにあたっての課題は何ですか。あてはまるものを３つまで選んでください。

１．子育てや教育にお金がかかりすぎる
２．保育サービスが整っていない
３．雇用が安定しない
４．働きながら子育てができる職場環境がない
５．自分の昇進・昇格に差し支える
６．家が狭い
７．子どもがのびのび育つ社会環境でない
８．自分または配偶者が高年齢
９．これ以上、自分または配偶者が育児の心理的、肉体的負担に耐えられない
10．妊娠・出産のときの身体的・精神的な苦痛
11．健康上の理由
12．配偶者の家事・育児への協力が得られない
13．その他（　　）
14．特にない

問８　子育てをされるにあたって、子育てを支援する施策としてどのような施策が役に立つと思いますか。あてはまるものを３つまで選んでください。

１．保育所の時間など、多様な保育サービスの充実
２．保育料等の支援、軽減
３．教育費の支援、軽減
４．小児医療の充実
５．小学校入学後の放課後の預かり時間の改善
６．育児休業を取りやすい職場環境の整備
７．職場復帰後、子育てと仕事の両立がしやすい職場環境の整備
８．再就職の支援
９．子育て相談施設等の充実
10．子育てについて若いころからの教育
11．その他（　　）

【仕事と子育てについて】

問９～問 12 は第一子出生時について、出産された方の就業状況等をお答えください。

問９　出産１年前の就業状況について、あてはまるものを１つ選んでください。
なお、「３．勤め（常勤）」を選んだ方は、右の企業規模・官公庁のあてはまるものを１つ選んでください。

	就業状況等	企業規模・官公庁
出産1年前	１．主婦 ２．学生 ３．勤め（常勤） ４．勤め（パート、アルバイト） ５．自営業・家業 ６．その他（　　）	１．　１～　５人 ２．　６～　５０人 ３．　５１～１００人 ４．１０１～３００人 ５．３０１人以上 ６．官公庁

問 10　出産１年後の就業状況について、あてはまるものを１つ選んでください。
なお、「３．勤め（常勤）」を選んだ方は、右の企業規模・官公庁のあてはまるものを１つ選んでください。※育児休業中の場合は「勤め（常勤）」を選んでください。

	就業状況等	企業規模・官公庁
出産1年後	１．主婦 ２．学生 ３．勤め（常勤）※育児休業中含む ４．勤め（パート、アルバイト） ５．自営業・家業 ６．その他（　　）	１．　１～　５人 ２．　６～　５０人 ３．　５１～１００人 ４．１０１～３００人 ５．３０１人以上 ６．官公庁

問 11　出産１年前に「３．勤め（常勤）」を選んだ方で、出産１年後は「３．勤め（常勤）」以外を選ばれた方にお尋ねします。
「勤め（常勤）」をやめたのはどうしてですか。あてはまるものを１つ選んでください。

１．家事・育児に専念するため自発的にやめた
２．結婚、出産、育児を機に辞めたが、理由は結婚、出産等に直接関係ない
３．夫の勤務地や夫の転勤の問題で仕事を続けるのが難しかった
４．仕事を続けたかったが、仕事と育児の両立の難しさでやめた　⇒問１２へ
５．解雇された、退職勧奨された
６．子を持つ前と仕事の内容や責任等が変わってしまい、やりがいを感じられなくなった（なりそうだった）
７．その他（　　）
８．特にない

問 12　問 11 で「4．仕事を続けたかったが、仕事と育児の両立の難しさでやめた」を選ばれた方にお尋ねします。

その理由についてあてはまるものをいくつでも選んでください。

1．自分の体力がもたなさそうだった（もたなかった）
2．育児休業をとれそうになかった（とれなかった）、または会社に育児休業制度がなかった
（注）会社に制度がなくても申し出れば取得することができます
3．保育園等の開所時間と勤務時間が合いそうにもなかった（合わなかった）
4．こどもの病気等で度々休まざるを得ないため
5．保育園等に子どもを預けられそうもなかった（預けられなかった）
6．つわりや産後の不調など妊娠・出産に伴う体調不良のため
7．育児に対する配慮や理解がない職場だった
8．家族がやめることを希望した
9．手助けをしてくれる親族がいなかった
10．仕事による収入が保育料に見合わなかった
11．その他（　　）

【家庭と子育てについて】

問 13　子育て、子どもの世話の分担についてあてはまるものを１つ選んでください。

1．もっぱら妻が行う
2．主に妻が行うが、夫も手伝う
3．妻も夫も同じように行う
4．主に夫が行うが、妻も手伝う
5．もっぱら夫が行う
6．その他（　　）

問 14　家事の分担についてあてはまるものを１つ選んでください。

1．もっぱら妻が行う
2．主に妻が行うが、夫も手伝う
3．妻も夫も同じように行う
4．主に夫が行うが、妻も手伝う
5．もっぱら夫が行う
6．その他（　　）

問 15　あなたや配偶者の親から子育ての支援を受けていますか。
あてはまるものを１つ選んでください。

1．とてもよく支援をしてもらっている
2．よく支援してもらっている
3．どちらともいえない
4．あまり支援をしてもらっていない
5．まったく支援をしてもらっていない

問 16　親から受けている支援の内容はどのようなことですか。
あてはまるものをすべて選んでください。

1．子どもの相手・預かり
2．子どもの送り迎え
3．食事の支援
4．家事の支援
5．金銭的な支援
6．物資（農産物など）の仕送り
7．ほとんどない

問 17　自分にとって子育てを楽しいと感じることが多いですか、それとも辛いと感じることが多いですか。あてはまるものを１つ選んでください。

1．楽しいと感じることの方が多い
2．楽しいと感じることと辛いと感じることが同じくらい
3．辛いと感じることの方が多い
4．わからない
5．その他（　　）

問 18　子育てをしていて負担・不安に思うことは何ですか。主なものを３つまで選んでください。

1．子育てによる身体的負担が大きい
2．子育てによる精神的負担が大きい
3．子育ての出費がかさむ
4．自分の自由な時間がもてない
5．夫婦で楽しむ時間がない
6．仕事が十分にできない
7．子育てが大変なことを職場の人が理解してくれない
8．子どもの病気
9．将来予想される子どもにかかる経済的負担
10．負担・不安に思うことはない
11．その他（　　）

問 19　子育ての費用の中で負担が大きいと感じるものは何ですか。
主なものを３つまで選んでください。

1．食費
2．生活用品費
3．医療費
4．保育費
5．学校教育費
6．その他教育費（塾、習い事など）
7．衣類・雑貨費
8．おこづかい
9．お祝い行事関係費
10．子どものための預貯金・保険
11．レジャー・旅行費

問 20　① あなたの現在のお住まいについてあてはまるものを１つ選んでください。
② また、現在のお住まいには子ども部屋として使える部屋はいくつありますか。
部屋数をご記入ください。

① 1．持ち家（一軒家）
2．持ち家（マンションなどの集合住宅）
3．民間の賃貸住宅
4．公団・公社・公営の賃貸住宅
5．社宅・公務員住宅
6．親の持ち家に同居
7．その他（　　）

② 子ども部屋として使える部屋数	部屋

①で「1」「2」（持ち家）と回答された方への質問は以上です。

①で「3」～「7」と回答された方は 問 21 へ

問 21　問 20 ①で３～７と回答された方に伺います。
今後持ち家を購入されるとしたら、どのタイミングで購入されると思いますか。
あてはまるものを１つ選んでください。

1．子どもがもう１人生まれる時
2．子ども（第一子）が保育園（幼稚園）児等になるとき
3．子ども（第一子）が小学生になるとき
4．子ども（第一子）が中学生になるとき
5．現在のところ、購入するつもりはない
6．その他（　　）

●子育ての不安や、子育て支援に対する要望などございましたら、ご記入ください。

質問は以上です。ご協力いただきありがとうございました。